



第 2 部

現況と意向調査

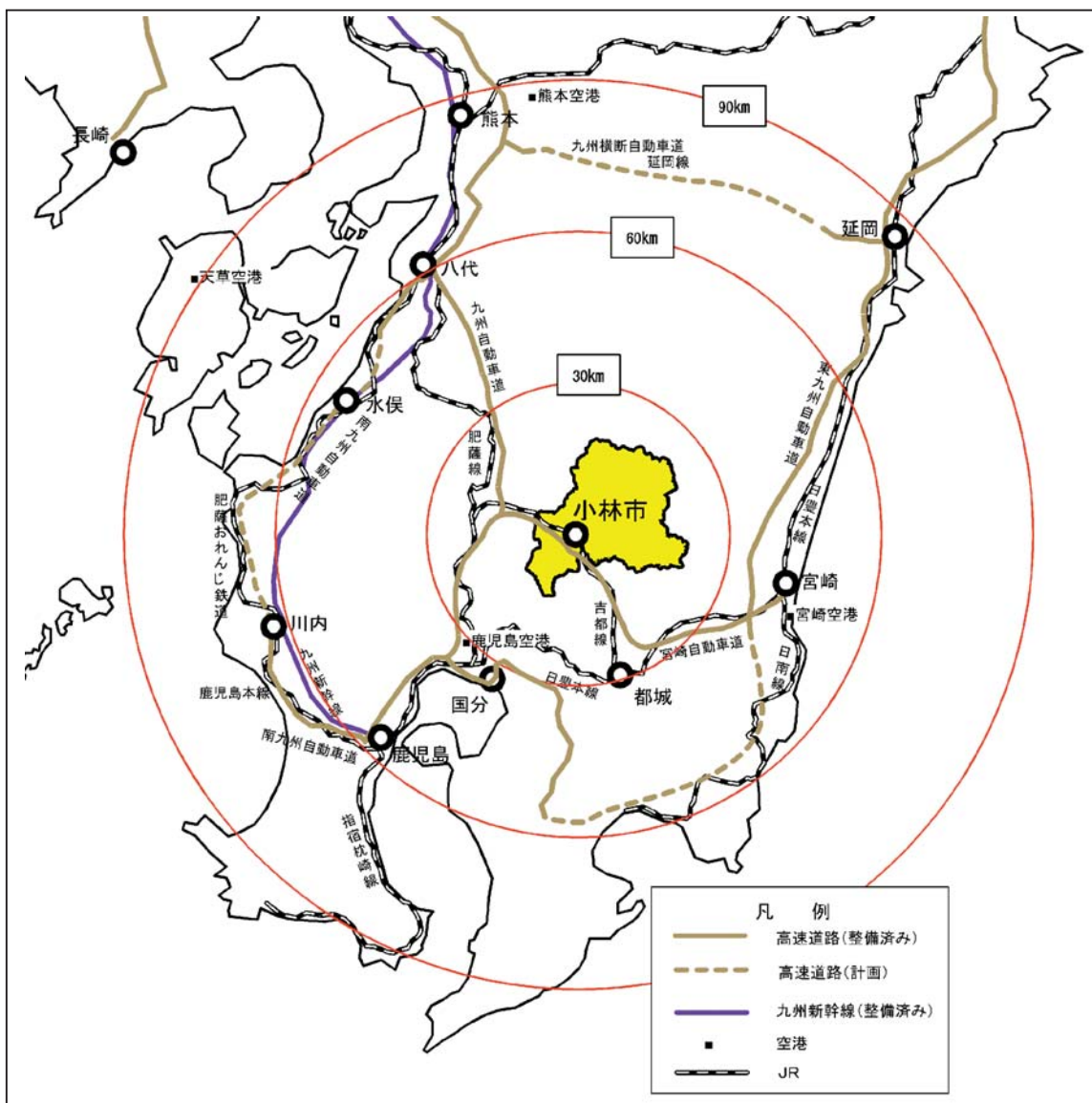


第 1 章 小林市の現況

(1) 位置

本市は南九州の中央部および宮崎県の南西部に位置し、北部は西米良村・熊本県多良木町・熊本県あさぎり町、東部は綾町・宮崎市、南部は高原町・都城市・鹿児島県霧島市、西部はえびの市と隣接しています。これらの宮崎市・鹿児島市・熊本市等の地方中核都市や周辺市町村とは、国道 221 号・国道 268 号・国道 265 号および宮崎自動車道等の広域道路網や、JR 日豊本線・JR 肥薩線と接続する JR 吉都線の鉄道網等により結ばれています。

また、西諸県圏域（本市、えびの市、高原町）においては、人口や位置、都市機能の集積状況等により、本市が定住自立圏構想における圏域の中心市として位置づけられています。



図：本市の位置

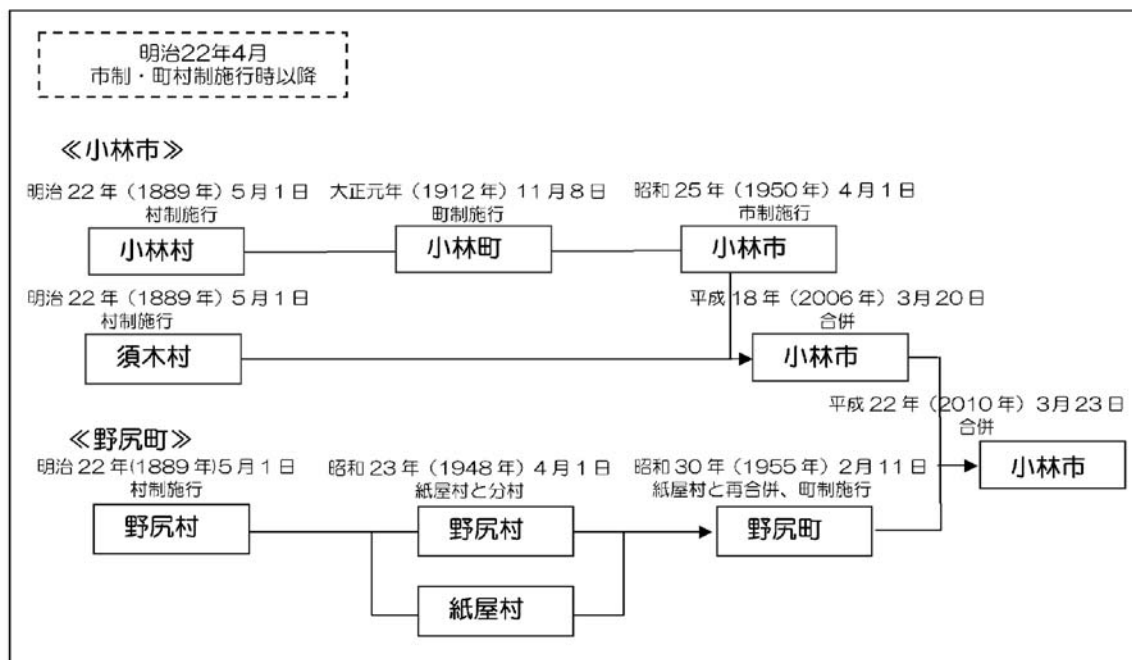


(2) 沿革

明治22年(1889年)の市制・町村制の施行により全国一律に町村合併が進められ、本市においても小林村、須木村、野尻村の3村が誕生しました。

その後小林村は、大正元年(1912年)に町制施行を行い小林町となり、さらに昭和25年(1950年)には市制施行により小林市となりました。また野尻村は、昭和23年(1948年)に紙屋村と分村しますが、昭和30年(1955年)には再度合併して、野尻町になりました。

近年においては、平成18年(2006年)に小林市と須木村が合併、平成22年(2010年)には小林市と野尻町が合併し、現在に至っています。

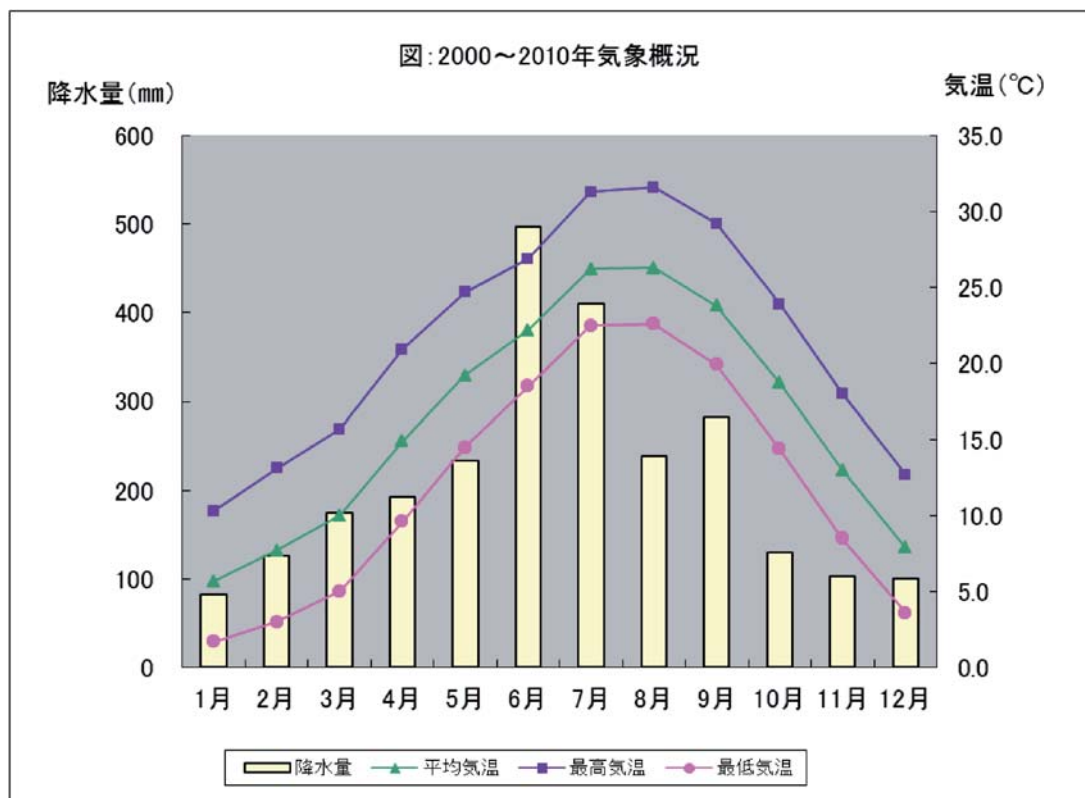


図：本市の合併の変遷

(3) 自然

① 気象

本市の平均気温は 16.3℃、最低月の平均気温は 5.7℃、最高月は 26.3℃となっています。また、年間降水量は 2,571mm であり、月別で最も多いのは 6 月 (498mm)、最も少ないのは 1 月 (83mm) となっています。

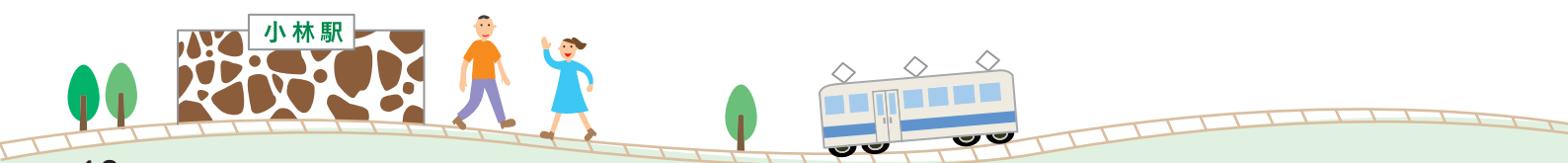


【資料：気象庁気象統計情報】

図：本市の気象概況

② 地形

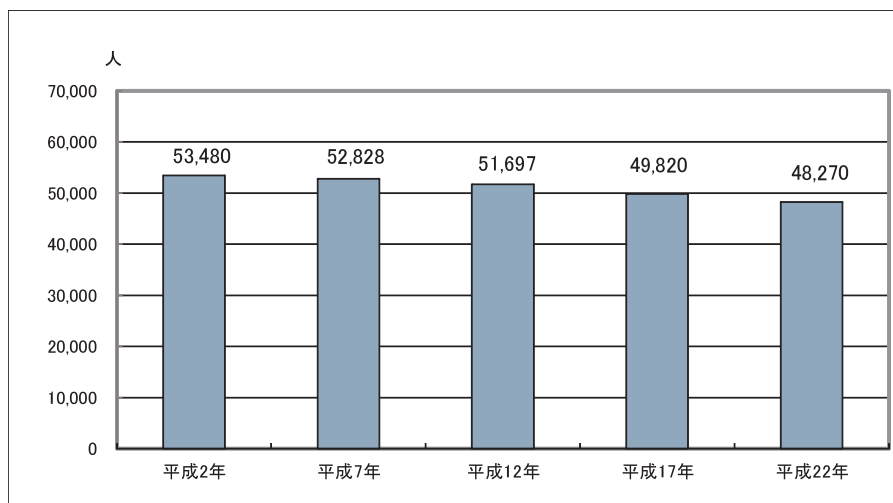
本市の北部から南西部にかけて市を囲むように九州山地、霧島山地が連なり、それらを源とする湧水などによって清らかな河川が形成されています。また、山に囲まれた地形であるため、昼夜間の気温差や夏と冬の寒暖差が大きく、温暖な宮崎県でありながら降雪が見られるとともに霧の発生も多い地域です。



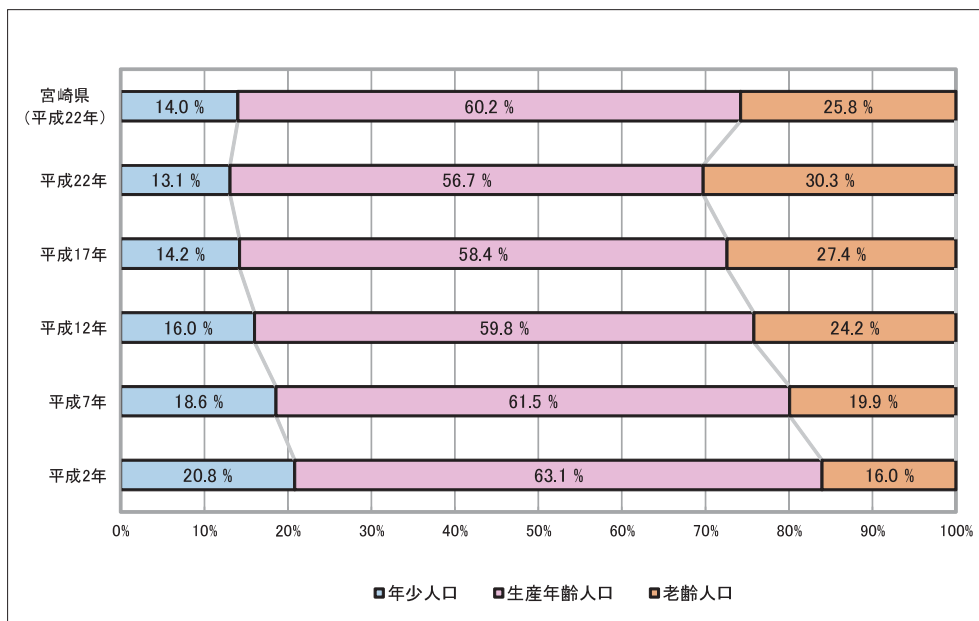
(4) 人口の動向

① 人口・世帯数

平成2年からの本市の人口の推移（上図）は、継続的に減少している状況です。また、年齢階層別の比率（下図）は、14歳以下の年少人口比率が平成2年の20.8%から減少（平成22年：13.1%）、15歳～64歳の生産年齢人口についても平成2年の63.1%から減少（平成22年：56.7%）している一方で、65歳以上の高齢人口は16.0%から増加（平成22年：30.3%）しており、少子高齢化が進行している状況です。



図：人口の推移 【資料：国勢調査】

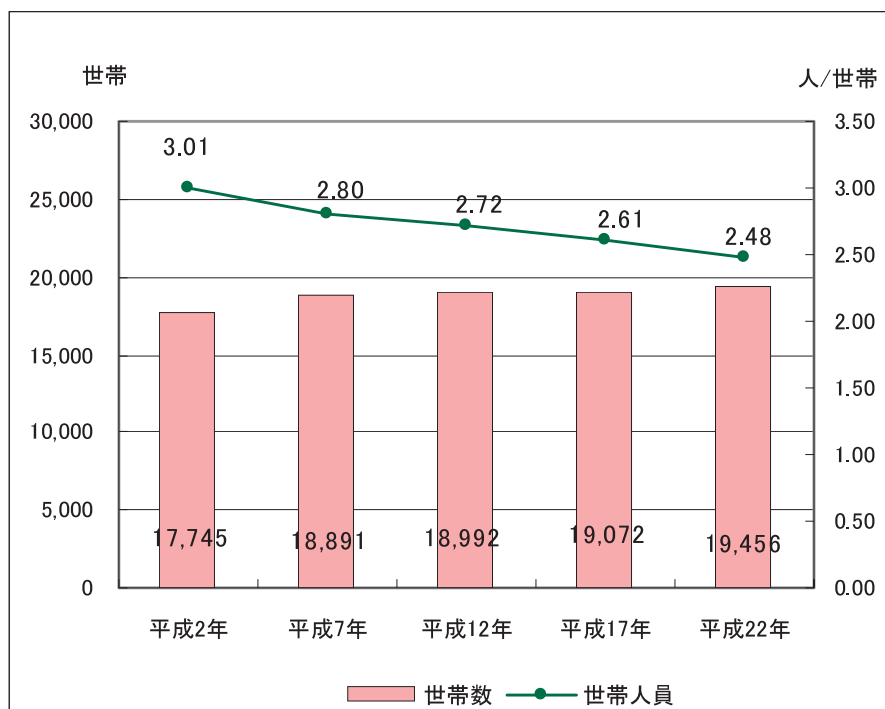


図：年齢階層別比率の推移

【資料：国勢調査】

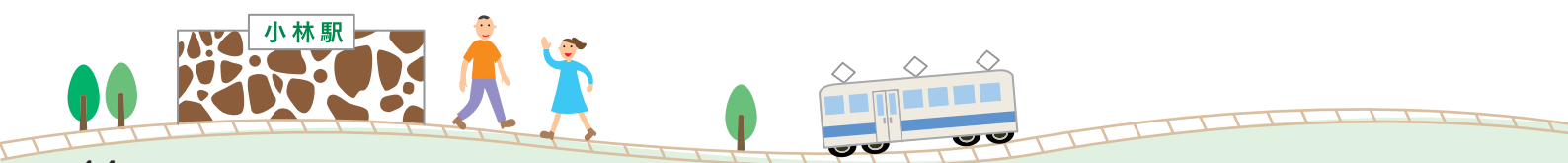
※年齢階層別比率の数値について、四捨五入の関係で表示の値の合計が100%にならない場合があります。

世帯数については、平成2年の17,745世帯から平成22年には19,456世帯に増加している一方で、世帯人員は平成2年の3.01（人/世帯）から平成22年に2.48（人/世帯）に減少しており、核家族化が進んでいる状況です。



【資料：国勢調査】

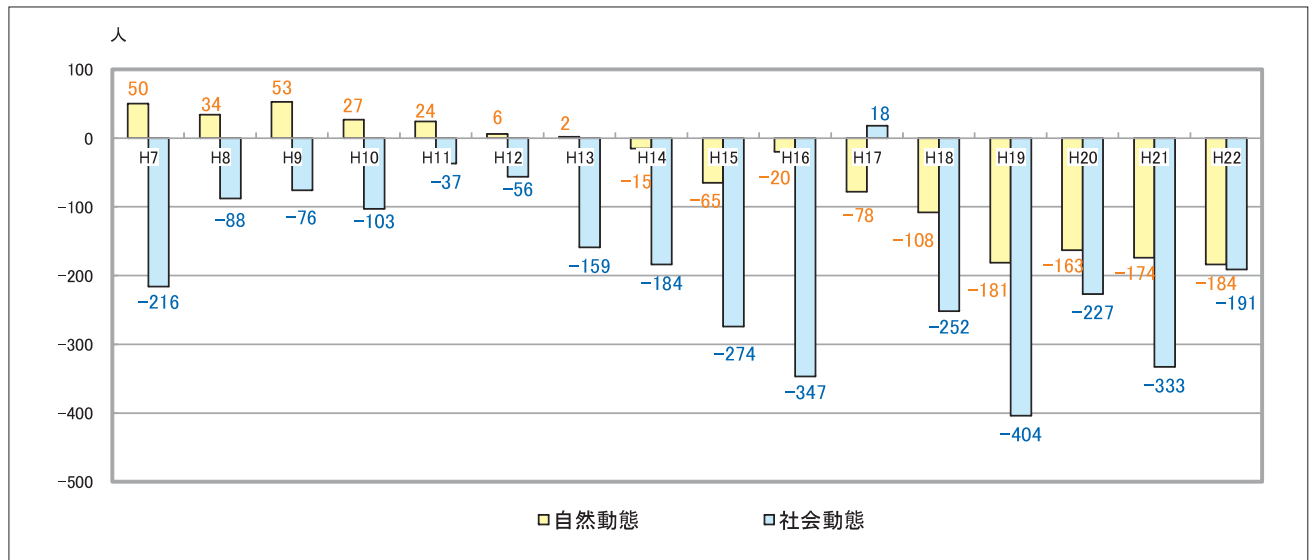
図：世帯数と世帯人数の推移



② 人口動態

自然動態については、平成 14 年以降にプラスの数値からマイナスの数値に転じており、その後、マイナスの数値が大きくなっていることがわかります。

一方、社会動態については、平成 16 年までマイナスの数値が続き、平成 17 年にはプラスの数値に転じたものの、その後は継続してマイナスの数値が続いていることがわかります。



図：人口動態の推移

【資料：住民基本台帳】

※自然動態：一定期間における出生・死亡に伴う人口の動き
社会動態：一定期間における転入・転出に伴う人口の動き

③ 流出・流入人口

就業者の流出・流入については、概ね増加傾向にあり、行政区域を越えた周辺市町との交流が年々盛んになっていることがうかがえます。また、流入・流出先は、えびの市と高原町の割合が高く、西諸圏域内の交流の強さがわかります。

表：流出・流入人口 (単位：人，%)

	常住地による 就業者数	流出		従業地による 就業者数	流入		就業者 比率 (従/常)
		就業者数	流出率		就業者数	流入率	
平成12年	19,911	3,354	16.8	20,130	3,573	17.7	101.1
平成17年	19,426	3,627	18.7	19,563	3,764	19.2	100.7
平成22年	23,300	3,824	16.4	23,316	3,671	15.7	100.1

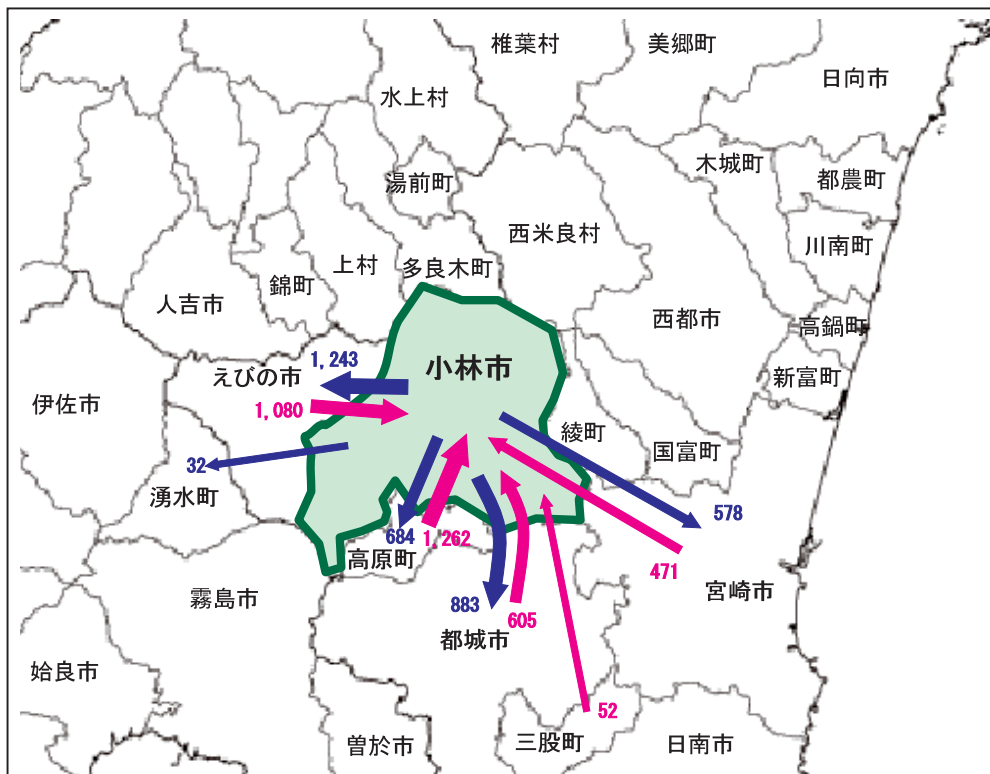
表：流出状況(就業者)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数
平成12年	えびの市	1,227	高原町	554	野尻町	414	都城市	359	宮崎市	228
平成17年	えびの市	1,234	高原町	656	野尻町	491	都城市	462	宮崎市	260
平成22年	えびの市	1,243	都城市	883	高原町	684	宮崎市	578	湧水町	32

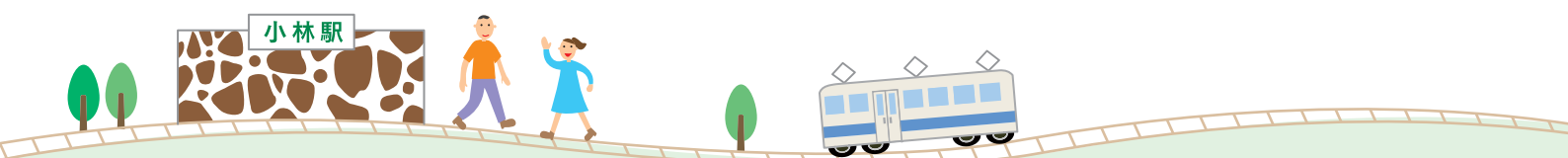
表：流入状況(就業者)

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
平成12年	高原町	947	えびの市	908	野尻町	543	宮崎市	276	都城市	249
平成17年	高原町	1,037	えびの市	941	野尻町	549	宮崎市	309	都城市	227
平成22年	高原町	1,262	えびの市	1,080	都城市	605	宮崎市	471	三股町	52

【資料：国勢調査】

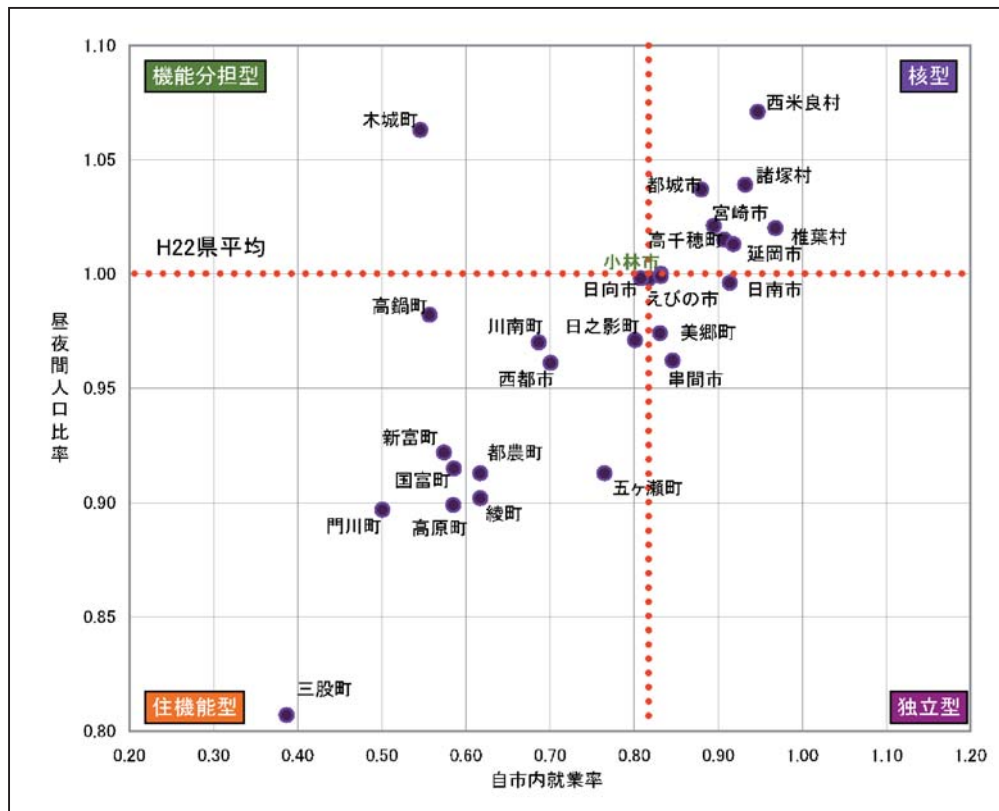


図：流出・流入人口の状況



④ 都市性格分類

本市は、昼夜間人口および自市内就業率ともに県平均値とほぼ同じ状況にあります。同様の市町村は、えびの市や日向市になります。



【資料：国勢調査】

図：都市性格の分類

核型：自市内で働く人が多く、就業・就学者を含めた昼間の人口が多い都市であり、生活圏における中心都市として機能
 独立型：自市内で働く人は多いが、昼間の人口は多くない都市であり、1都市である程度独立した生活圏を形成
 住機能型：自市内で働く人が少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市等のベッドタウンとして機能
 機能分担型：自市内で働く人は少ないが、昼間の人口が多い都市であり、職等の機能に特化

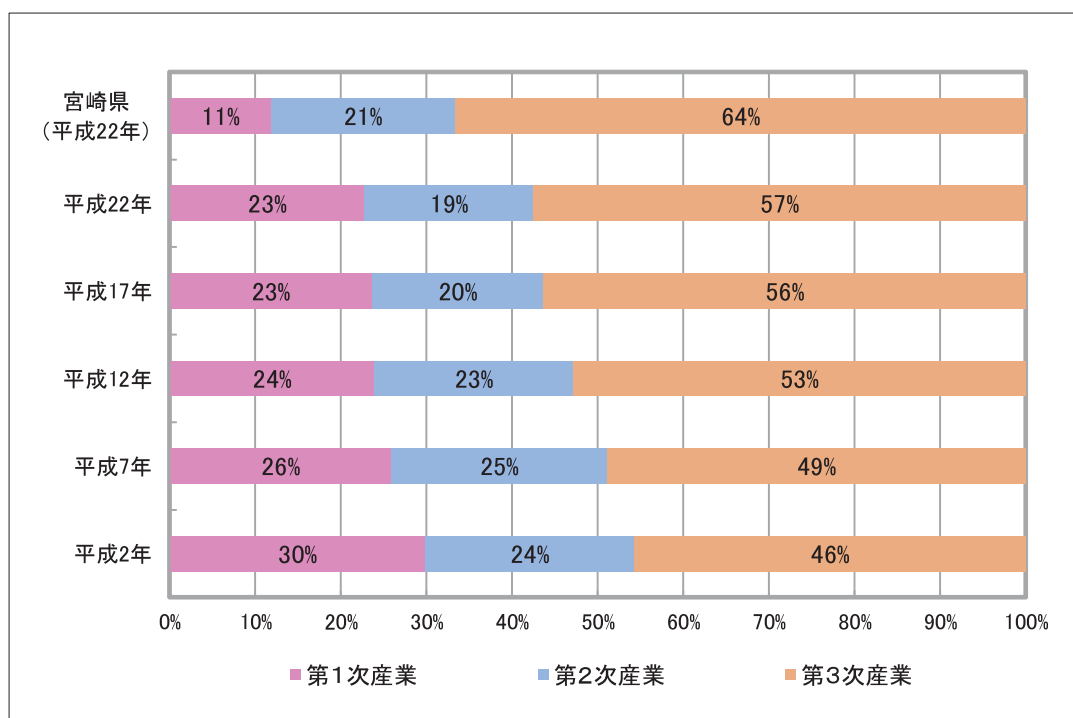
※ 昼夜間人口比率：常住人口（夜間人口）100人あたり昼間人口の割合。

(5) 産業

① 就業構造

県の第1次産業の割合は11%であることを勘案すると、本市の第1次産業の割合は非常に高く、基幹的な産業といえます。

しかし第1次産業および第2次産業の割合は年々減少しており、その一方で第3次産業の割合が年々増加してきている状況にあります。



【資料：国勢調査】

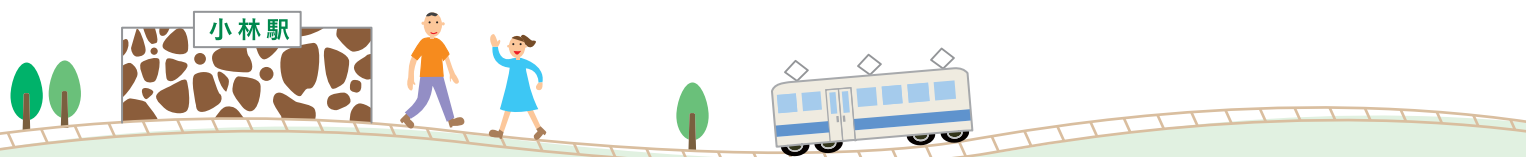
図：産業別就業者割合の推移

第1次産業：農業や林業、水産業等の最も基礎的な生産物の生産にかかわる産業です。

第2次産業：第1次産業が採取・生産した原材料を加工する製造業や建設業、電気・ガス業が該当します。

第3次産業：第1次産業にも第2次産業にも分類されない産業です。

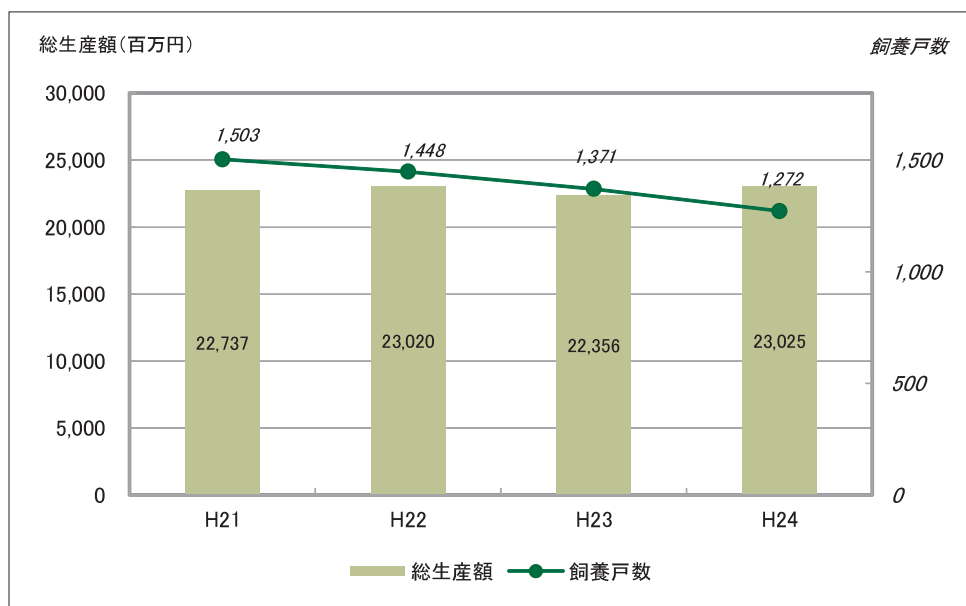
※産業別就業者割合については分類不能の産業があるため、合計が100%にならない場合があります。



② 農業

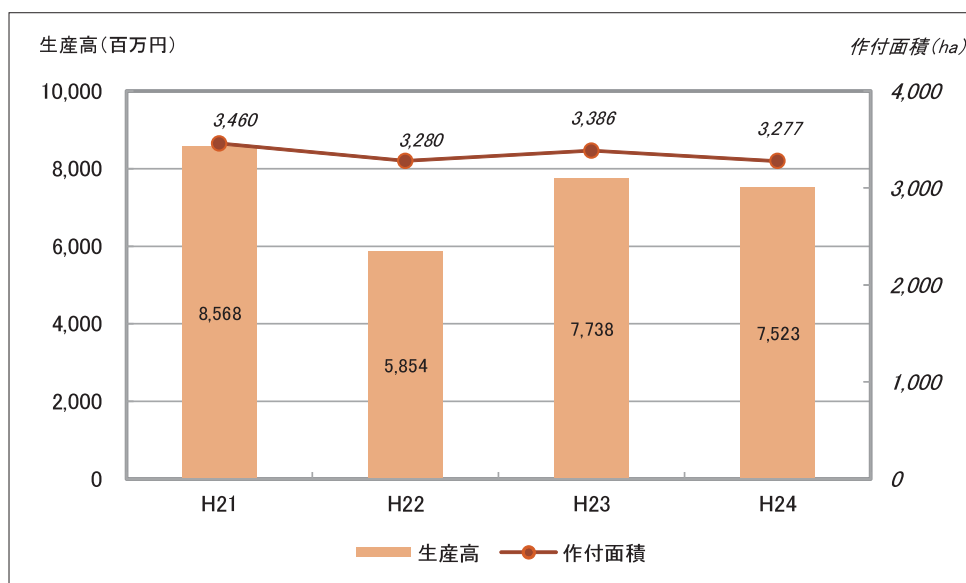
畜産総生産額を本ページの上図、普通作物生産高を下図に示します。

畜産については、総生産額がほぼ横ばいであるものの飼養戸数は減少している傾向にあります。また、普通作物については、作付面積はほぼ横ばいであるものの、生産高に着目すると数値の落ち込みが大きかった平成22年を除いてもやや減少傾向にあります。



【資料：小林市統計書】

図：畜産総生産額



【資料：小林市統計書】

図：普通作物生産高

平成 17 年と平成 22 年の農家総数を比較すると 4,358 戸（平成 17 年）から 4,032 戸（平成 22 年）と 326 戸減少しております。

また、経営耕地面積別農家数（販売農家）の推移をみると、3.0ha 未満の耕地面積で減少傾向がみられ、特に 0.3～1.0ha 未満の農家で減少率が大きくなっています。一方、3.0ha を超える経営規模では、増加している状況です。

表：総農家、販売農家、自給的農家別農家数及び経営耕地面積

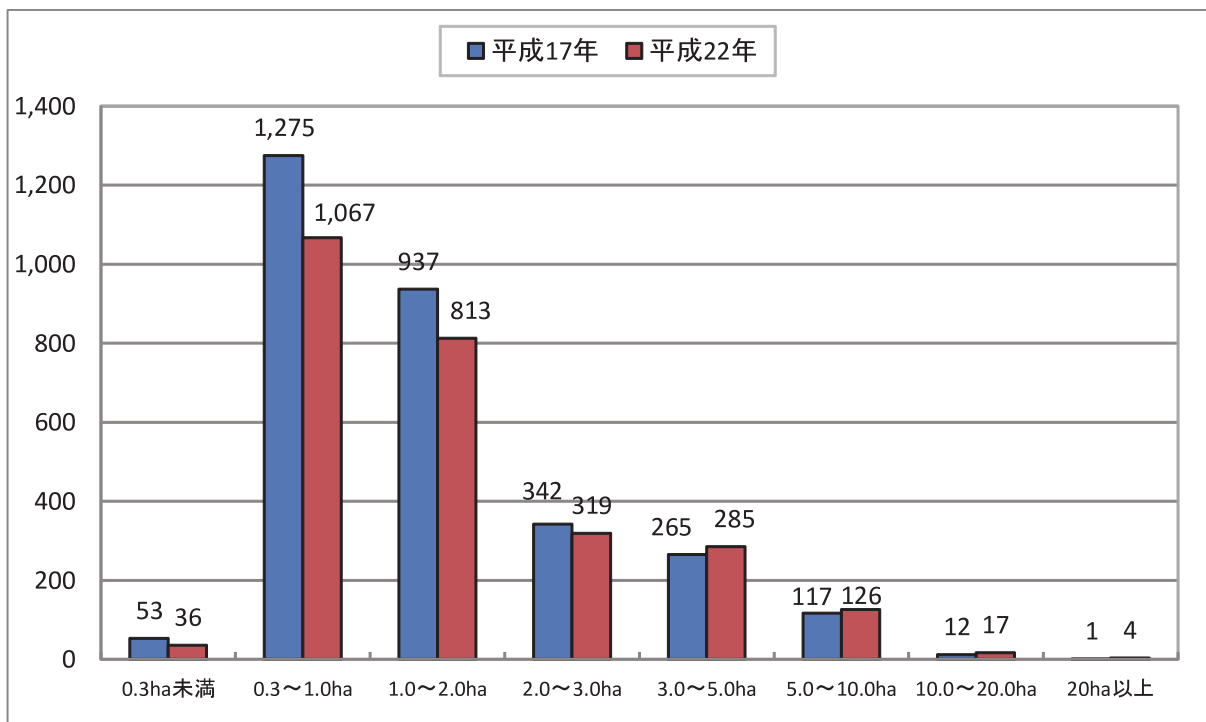
（単位：戸、a）

	総農家		販売農家		自給的農家	
	農家数	面積	農家数	面積	農家数	面積
平成17年	4,358	508,043	3,002	484,829	1,356	23,214
平成22年	4,032	506,244	2,687	482,503	1,345	23,741

【資料：農林業センサス】

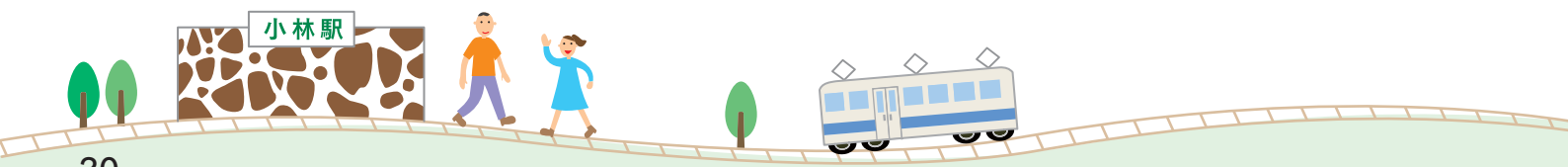
販売農家：経営耕地面積が 30a 以上あるいは農産物販売金額が 50 万円以上の農家を指します。

自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満かつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家を指します。



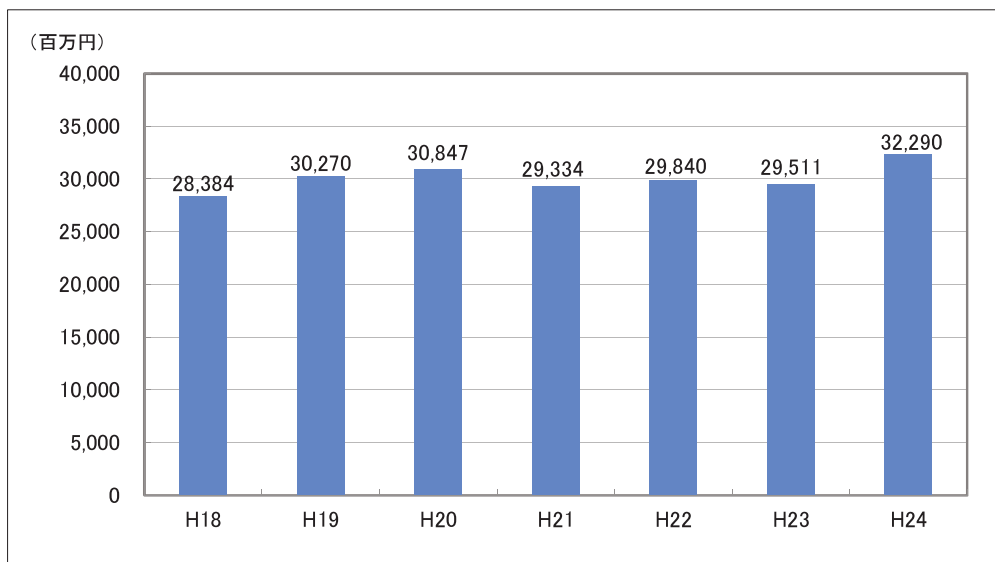
【資料：農林業センサス】

図：経営耕地面積別農家数（販売農家）



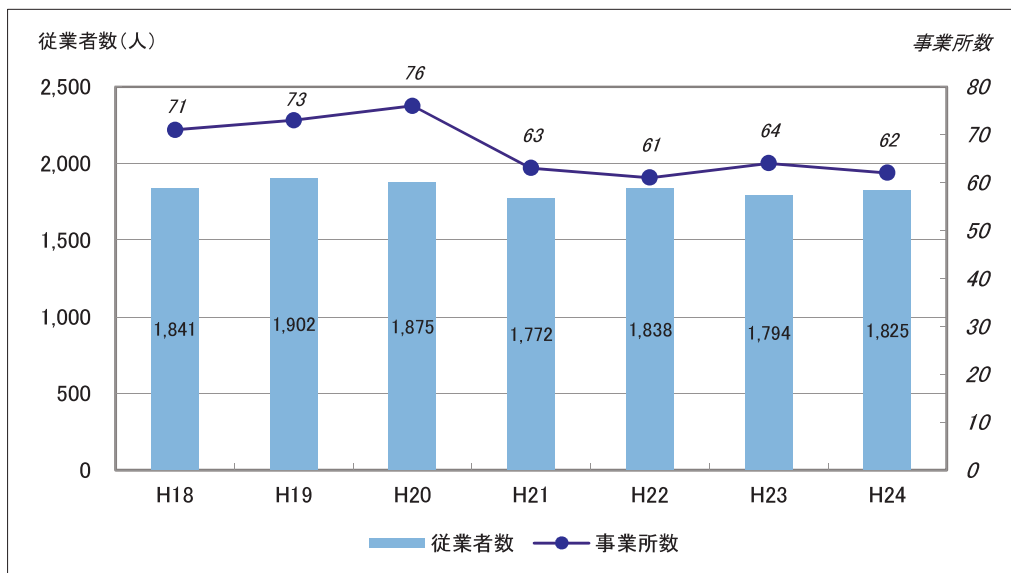
③ 工業

本市の製造品出荷額は、300億円前後でほぼ横ばい状況にあることが確認できます。一方、事業所数と従業者数についても、平成20年にやや増加したものの、平成21年以降は、ほぼ横ばい状況が続いていることが確認できます。



【資料：小林市総合計画・小林市統計書】

図：製造品出荷額の推移

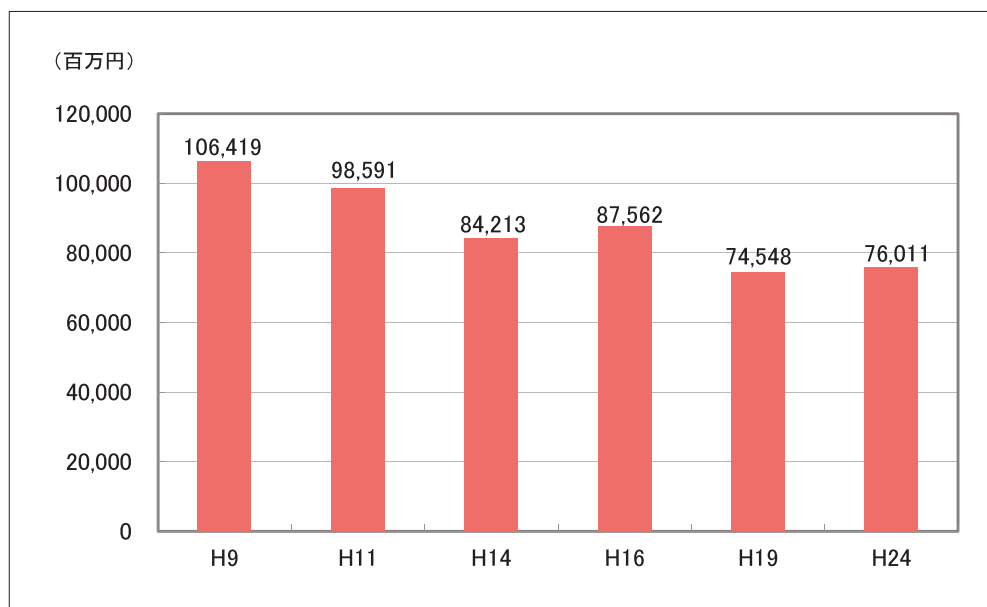


【資料：小林市総合計画・小林市統計書】

図：事業所数・従業者数の推移（工業）

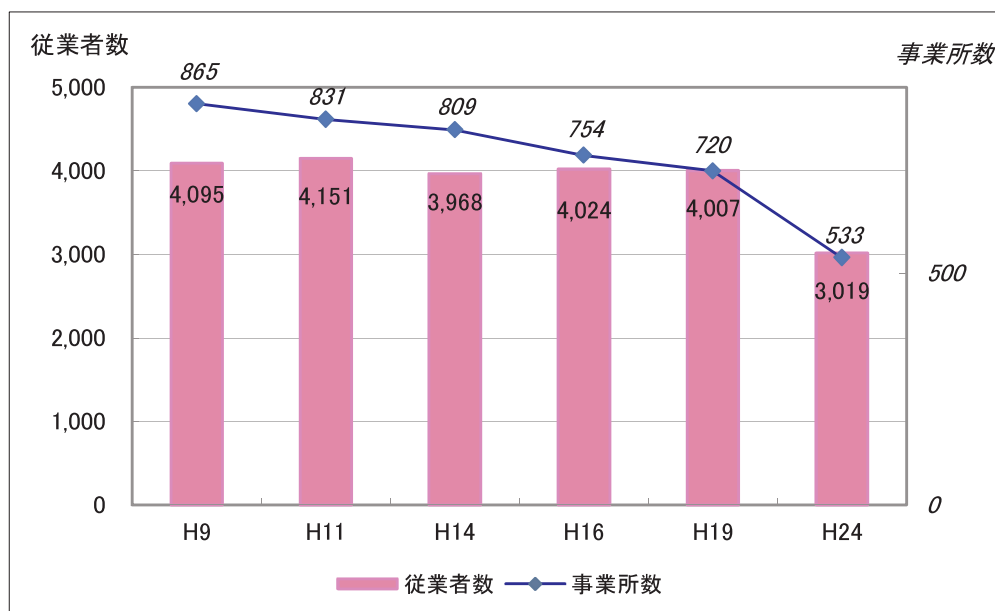
④ 商業

商業については、商業年間販売額、事業所数・従業者数ともに減少傾向にあります。



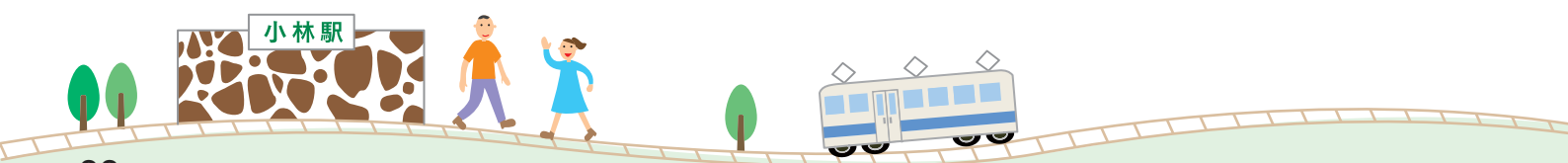
【資料：小林市総合計画・小林市統計書】

図：商業年間販売額



【資料：小林市総合計画・小林市統計書】

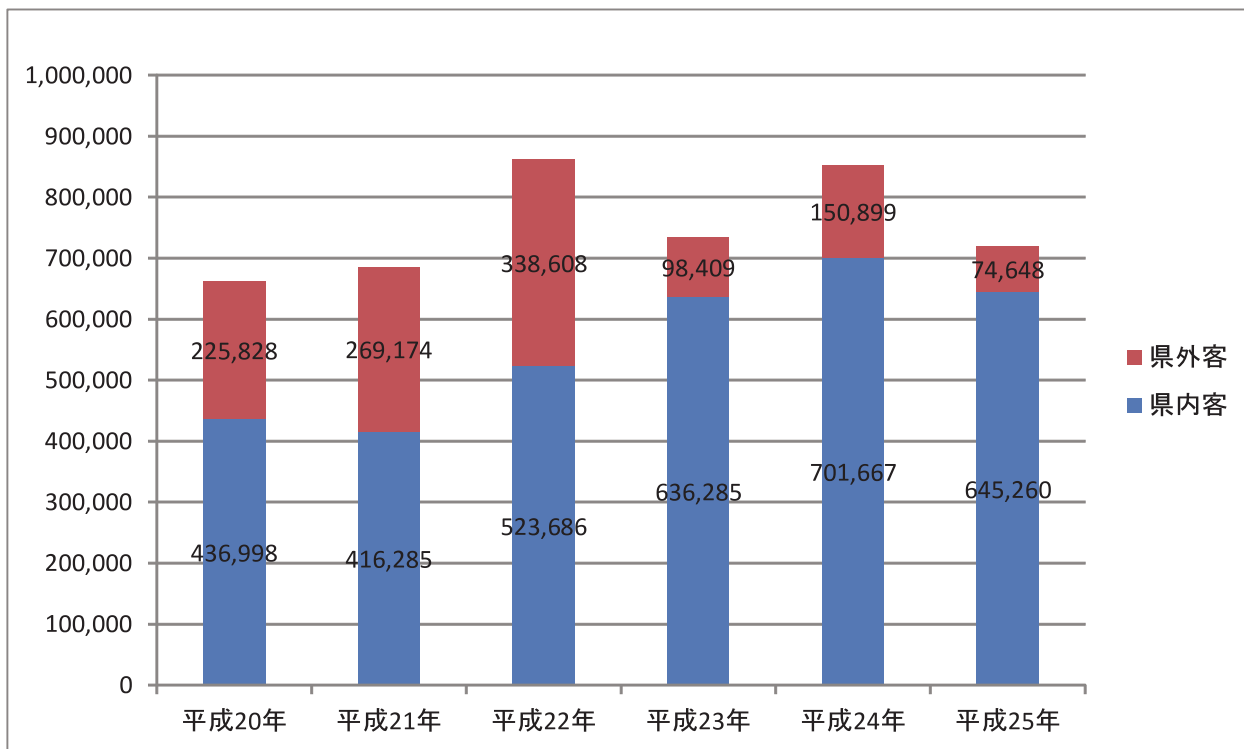
図：事業所数・従業者数の推移（商業）



⑤ 観光

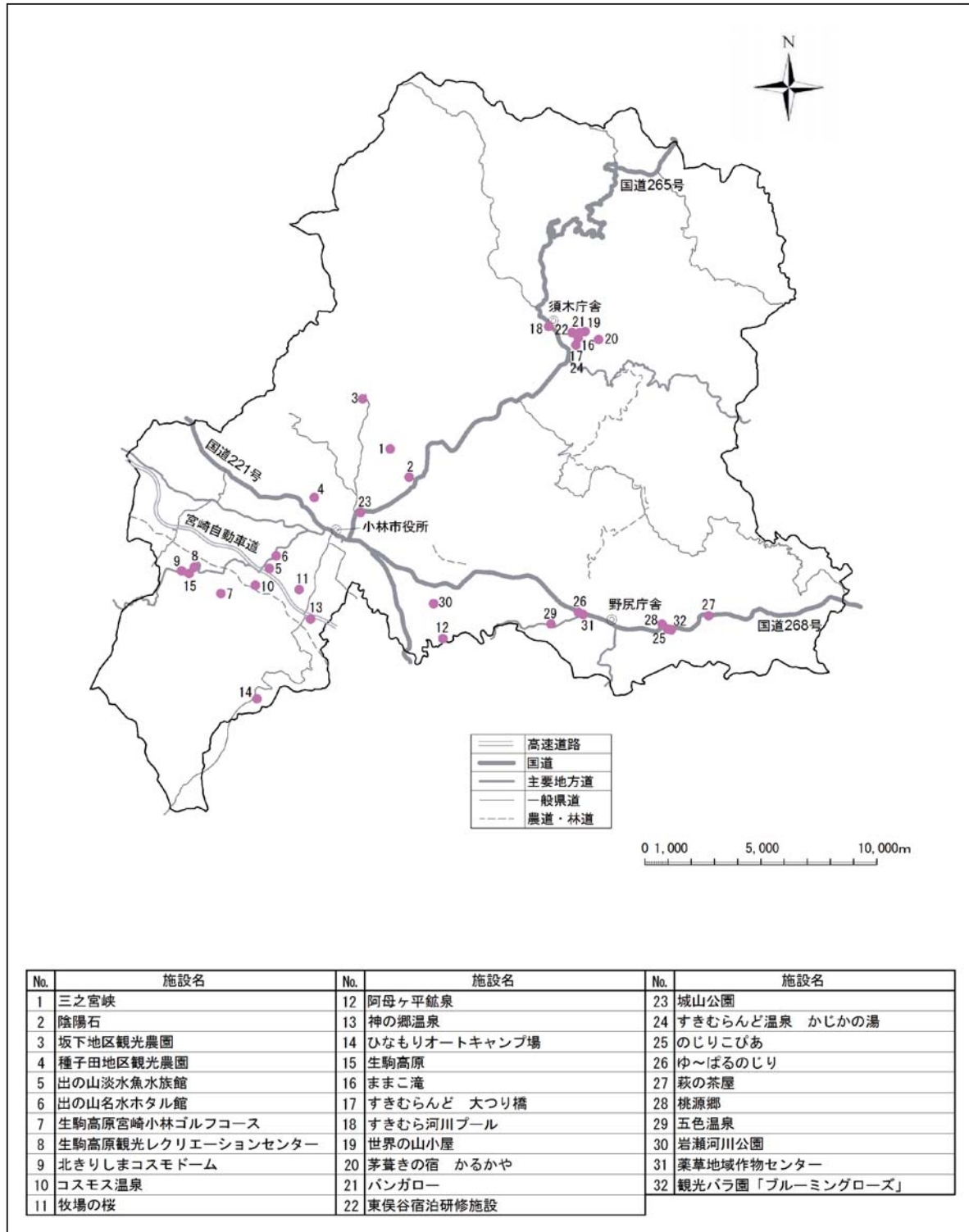
本市には次頁に示すような、様々な観光レクリエーション施設があります。

このような状況の中で、観光入込客数（平成20年～平成25年）に着目すると、県内客は概ね増加傾向にあるものの、県外客は平成22年をピークに減少している状況になっています。



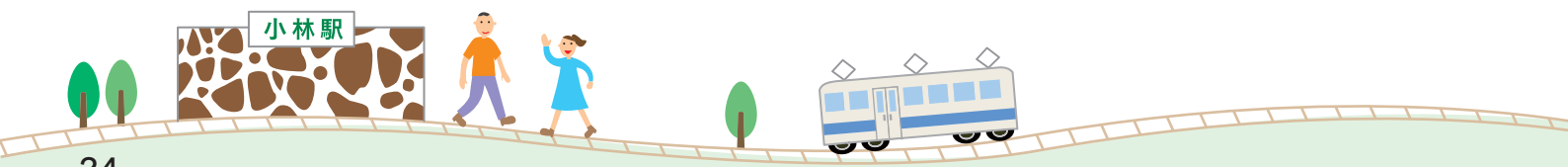
【資料：宮崎県観光入込客数統計調査結果】

図：観光入込客数の推移（小林市）



【資料：国土利用計画（小林市計画）】

図：レクリエーション施設配置図



(6) 土地利用

土地利用については、農用地や森林等の自然的土地利用が減少している（農用地：7,635ha[H5] ⇒ 6,859ha[H20]、森林 41,798ha[H5] ⇒ 41,164ha[H20]）一方で、道路や宅地等の都市的土地利用が増加しています。

表 地目別土地利用面積

(単位：ha)

地目	年	平成5年	平成12年	平成17年	平成20年	平成20年と 平成5年の比較
農用地		7,635	7,428	7,104	6,859	-776
農地		7,614	7,293	7,104	6,859	-755
田		2,692	2,653	2,613	2,535	-157
畑		4,922	4,640	4,491	4,324	-598
採草放牧地 [※]		21	135	0	0	-21
森林		41,798	41,037	40,950	41,164	-634
国有林		30,961	30,246	30,181	30,352	-609
民有林		10,837	10,791	10,769	10,812	-25
原野		1,394	1,818	1,157	1,252	-142
水面・河川・水路		876	853	853	853	-23
水面		365	358	358	358	-7
河川		454	449	449	449	-5
水路		57	46	46	46	-11
道路		1,006	1,295	1,302	1,393	387
一般道路		753	983	1,061	1,095	342
農道		176	165	171	166	-10
林道		77	147	70	132	55
宅地		1,326	1,488	1,504	1,431	105
住宅地		904	999	1,026	1,063	159
工業用地		80	58	32	33	-47
その他の宅地		342	431	446	335	-7
その他		2,289	2,390	3,439	3,357	1,068
合計		56,324	56,309	56,309	56,309	-15

注 採草放牧地：農地以外の土地で、主として耕作又は養畜の事業のための採草又は家畜の放牧の目的に供されるものをいう。（農地法第2条）

資料：「宮崎県土地利用現況把握調査」

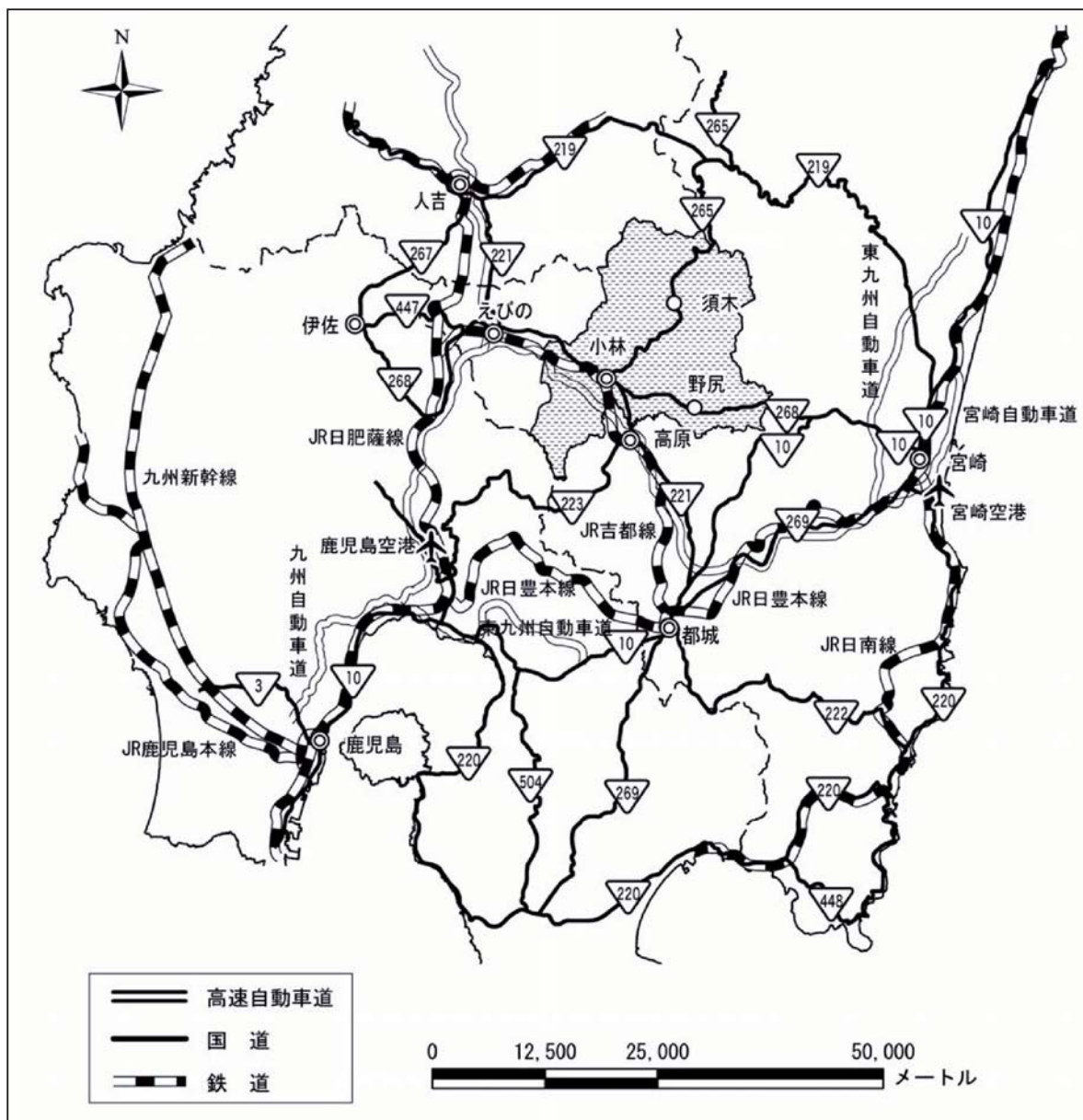


(7) 公共交通

市域の広域交通網は、鉄道、高速自動車道路、国道から構成されています。

鉄道は、JR 吉都線が東西方向に延びており、本市とえびの市および都城市をそれぞれ結んでいます。都城市では日豊本線と接続し、宮崎市や鹿児島県方面につながっています。

道路は、宮崎自動車道によって、市内にある小林 IC からえびの市と都城市・宮崎市方面とつながっています。また国道は、東西方向を国道 221 号、268 号が、南北方向には 265 号がそれぞれ広域幹線として延びています。



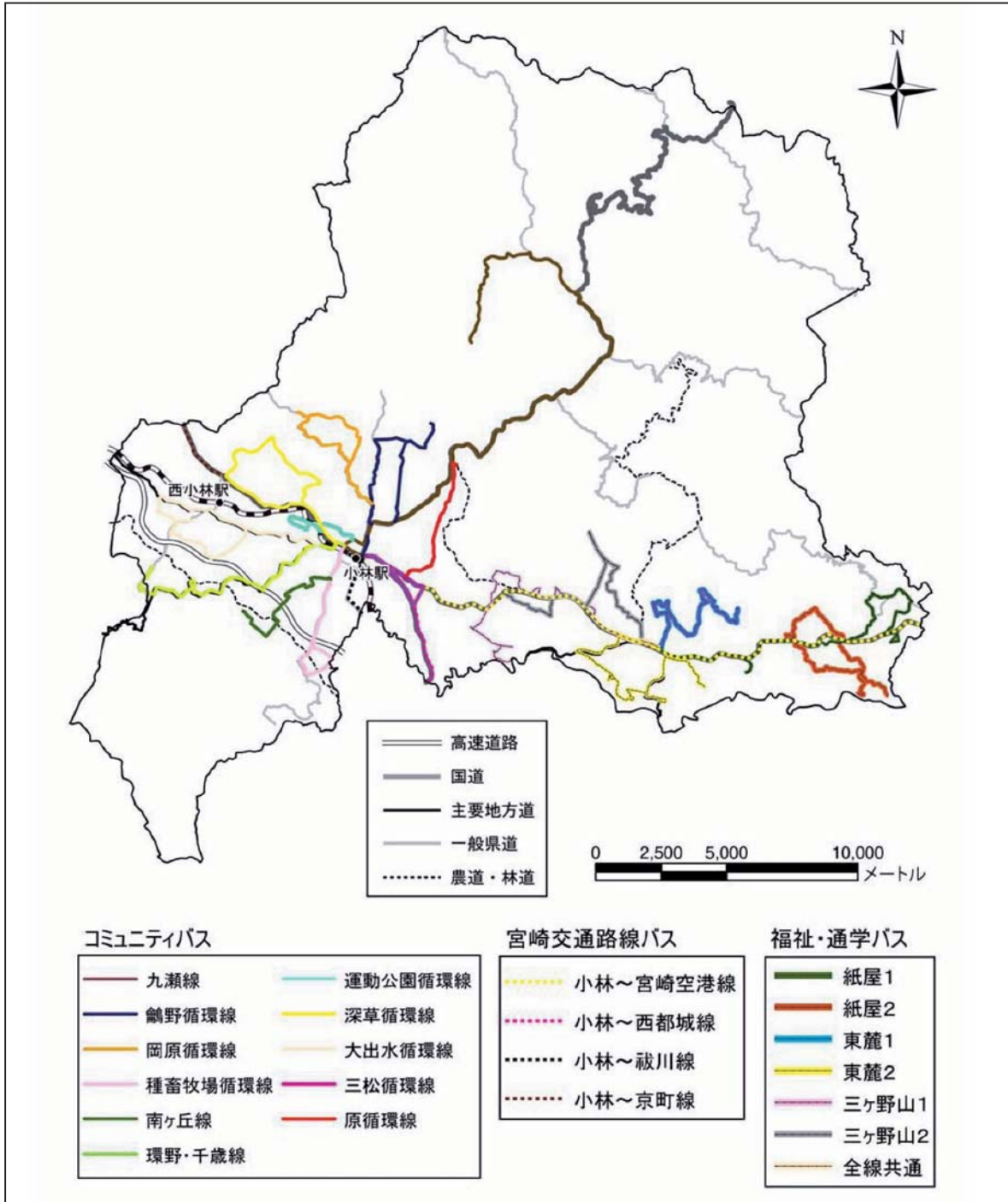
【資料：国土利用計画（小林市計画）】

図：広域交通網図



また、本市の公共交通は鉄道とバスで構成されています。

鉄道については、JR 吉都線の駅が市内に 2 駅（小林駅、西小林駅）あり、通勤・通学などの重要な交通手段となっています。バス路線網は、コミュニティバス、宮崎交通路線バス、福祉・通学バスから構成されています。



【資料：国土利用計画（小林市計画）】

図：公共交通機関配置図

1 小林市の都市計画史

本市の都市計画は、昭和 10 年(1935 年)に当時の小林町(230.85 k m²)が旧都市計画法による都市計画区域に指定された時から始まります。

戦後昭和 25 年(1950 年)の市制施行の後、道路法全面改正を受け、昭和 28 年(1953 年)に五日町上馬場線をはじめとする 14 路線の都市計画道路を計画決定しました。

用途地域については、昭和 29 年(1954 年)に住居、商業、準工業、工業の 4 地域で計 351.0ha を都市計画決定しました。また本市は、度々、大火に見舞われたことから、市街地火災の延焼を最小限にとどめることを目的に、昭和 36 年(1961 年)に準防火地域 39ha を指定しました。

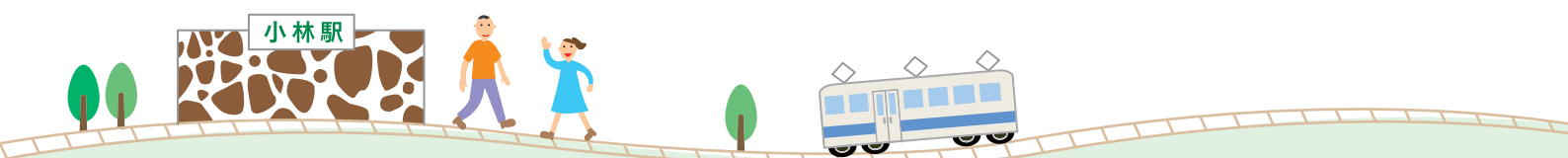
昭和 43 年(1968 年)になると、新たな都市化の時代を迎え、都市計画法が全面改正されました。本市においても法改正の趣旨に沿って、昭和 44 年(1969 年)に都市計画区域を 23.6 k m²にするとともに、昭和 46 年(1971 年)には用途地域を 430.1ha に拡大し、その中で住居系用途地域の拡大、工業系用途地域の縮小、住居専用地域の指定を行いました。

さらに、昭和 48 年(1973 年)には新たに近隣商業地域を指定したことで、用途地域指定面積も計 446ha になりました。その後、平成元年(1989 年)に見直し拡大をして計 495ha とし、平成 7 年(1995 年)には法改正に伴う住居系用途地域の細分化を行いました。

一方、小林駅北地区は本市の中心に位置し、商店が密集していましたが、建物の大部分が老朽化し、多くの道路が狭隘であったことから、昭和 42 年(1967 年)に調査を開始し、翌昭和 43 年(1968 年)に土地区画整理事業を決定しました。本事業は一時休止となったものの、再び気運が高まり昭和 51 年(1976 年)に施行条例を制定して実施し、当初構想から 20 有余年、事業着工から 16 年経過した平成 4 年(1992 年)に完成しました。他方、小林駅の南側の地区では、平成 24 年 5 月に小林駅前土地区画整理事業が完成し(事業開始は昭和 46 年)、良好な都市基盤に住宅・文化・福祉施設や専門学校等が立地してきています。

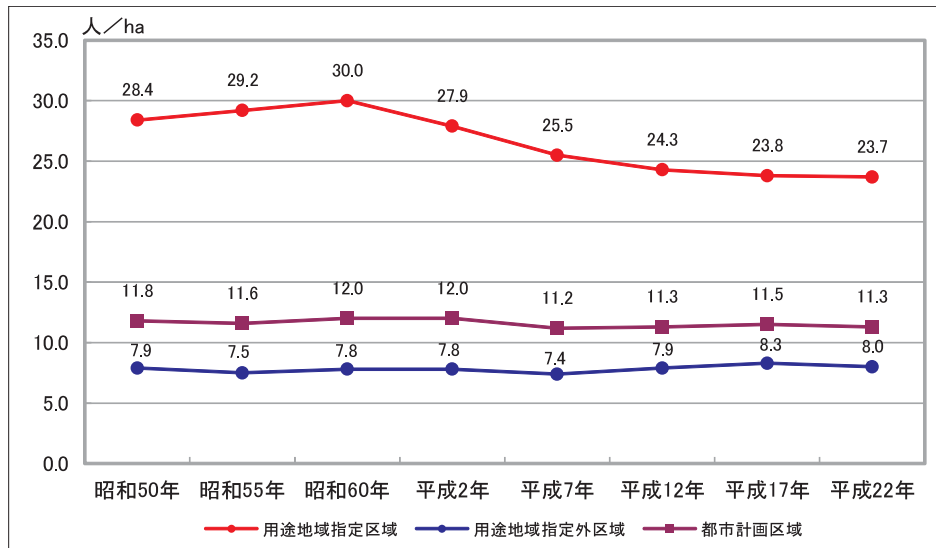
また、都市計画道路については、昭和 45 年(1970 年)と平成元年(1989 年)にそれぞれ 3 路線決定した後、平成 8 年(1996 年)に一部見直しと 1 路線の新設を決定し 20 路線になりました。しかし、人口減少社会を迎え、道路の必要性に変化が生じている路線もあり、現在では都市計画道路の見直しを進めているところです。

市街地環境を衛生的で良好なものに保つための下水道事業は、平成 4 年(1992 年)に基本計画を策定し、平成 5 年(1993 年)に 630ha の区域を都市計画決定しました。翌平成 6 年(1994 年)に事業着手し、平成 13 年(2001 年)から一部供用開始をしています。



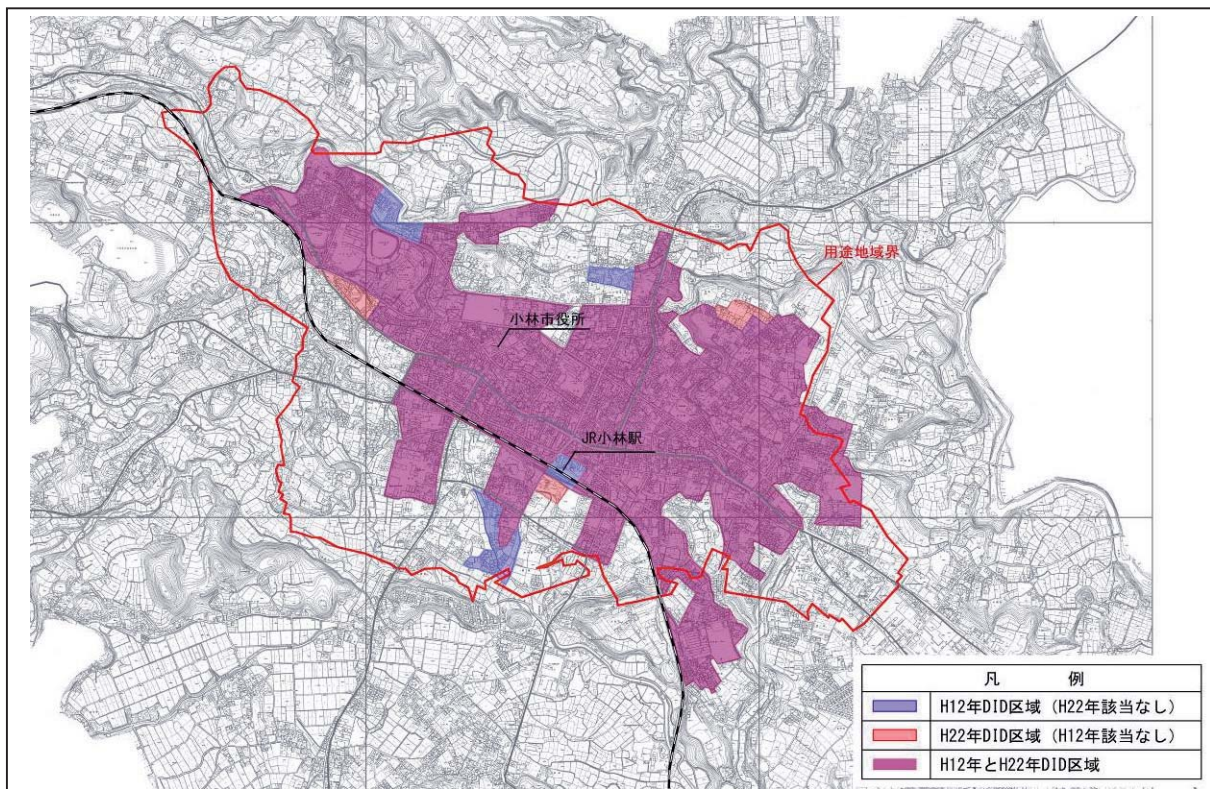
2 人口密度

用途地域内の人口密度については、昭和 60 年をピークに平成 12 年頃まで大幅な減少傾向が続いていました。平成 12 年以降は、用途地域内外・都市計画区域内ともに、ほぼ横ばいの状況にあります。



【資料：国勢調査（小林市都市計画基礎調査）】

図：人口密度の推移



図：DID 区域図（平成 12 年・平成 22 年）

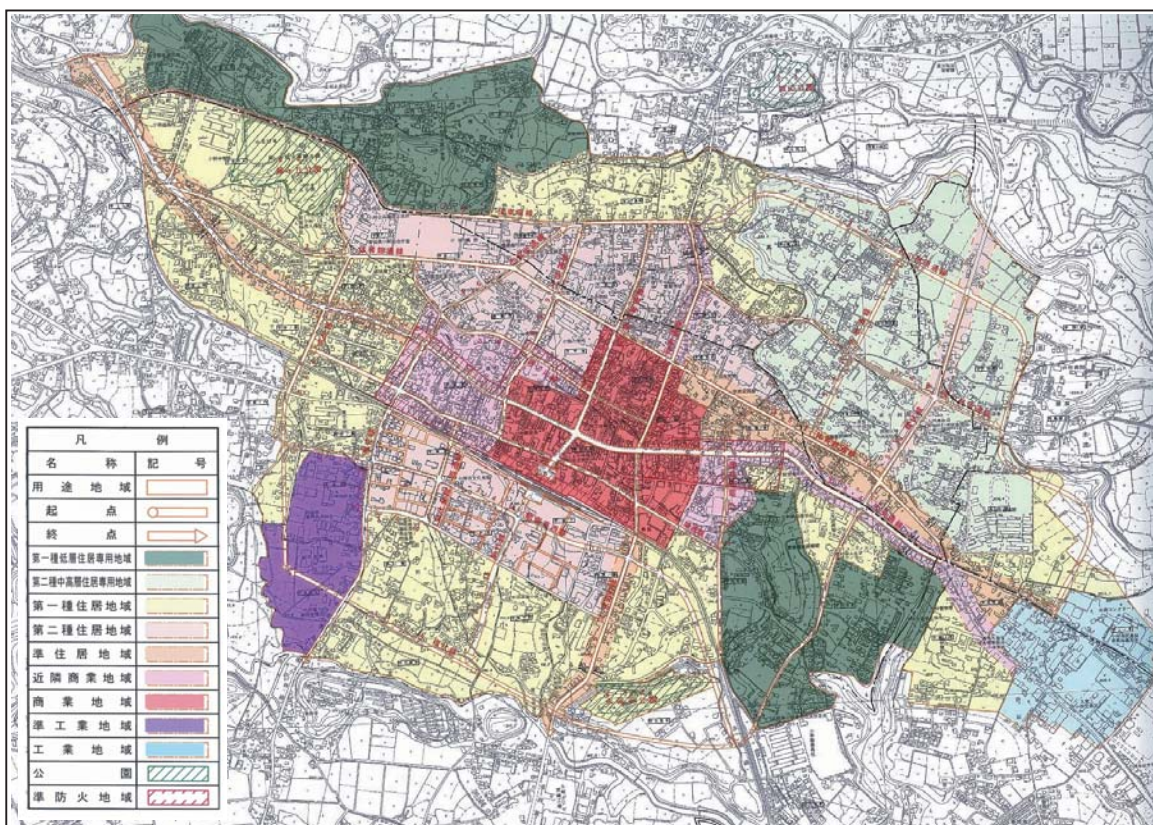
3 市街地の構成

(1) 土地利用規制

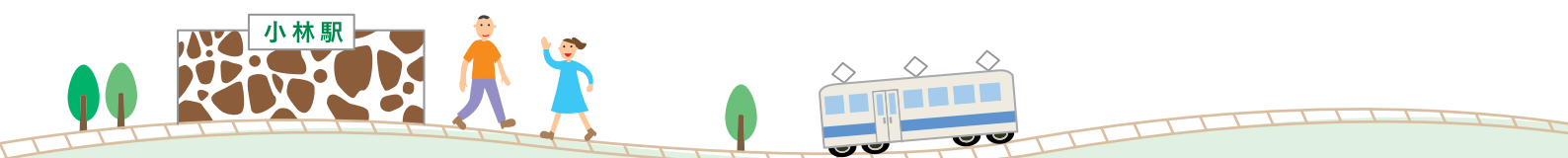
用途地域の面積は、都市計画区域 2,360ha の約 20% にあたります。また、用途地域の内訳をみると、住宅系用途地域が 400ha（用途地域の 81%）、商業系用途地域が 61ha（用途地域の 12%）、工業系用途地域が 34ha（用途地域の 7%）となっています。

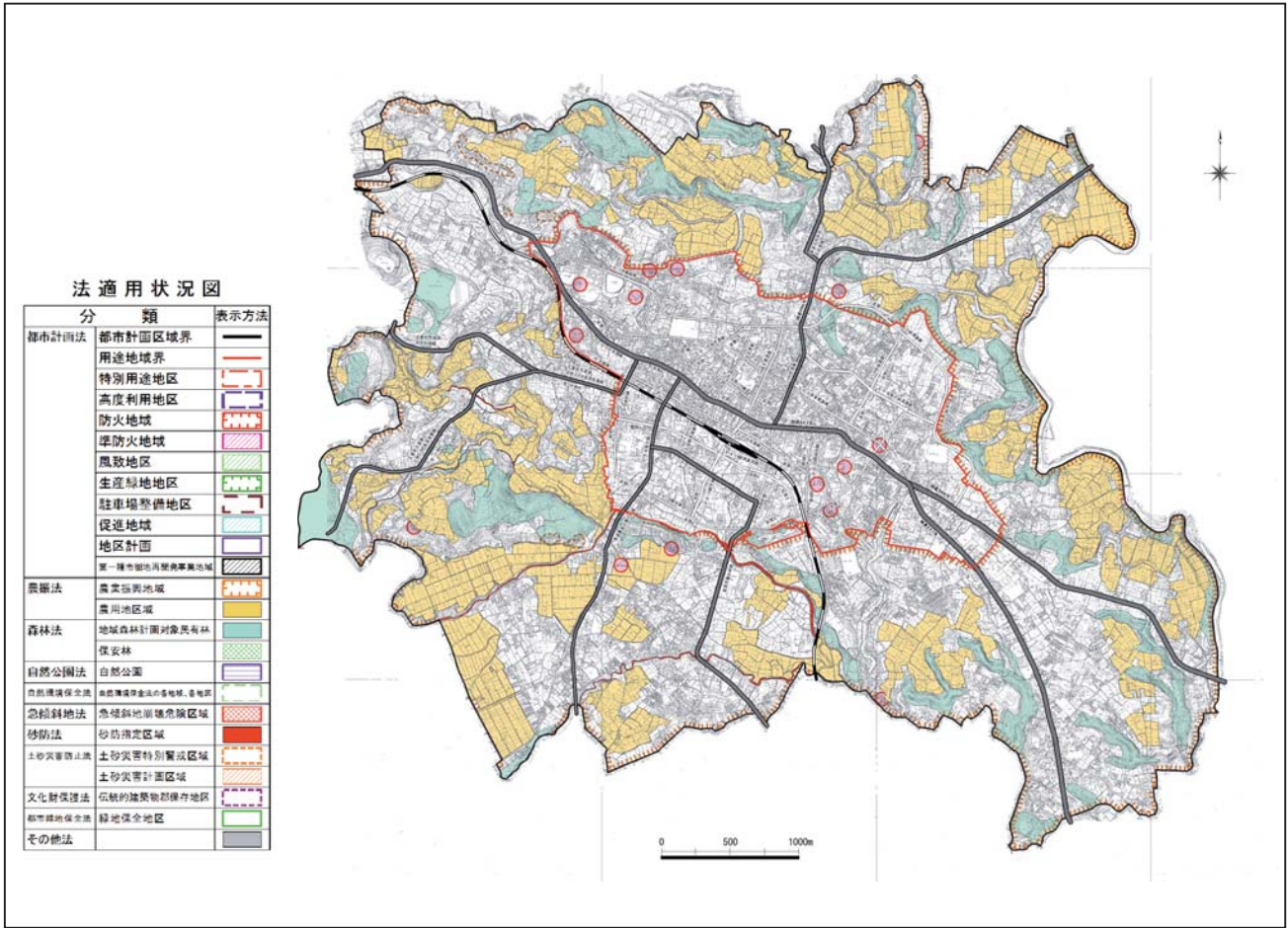
表：法規制（地域地区等）

区分		規模	
都市計画区域		2,360	ha
用途地域		495	ha
用途地域	第一種低層住居専用地域	71	14.3%
	第二種中高層住居専用地域	68	13.7%
	第一種住居地域	150	30.3%
	第二種住居地域	78	15.8%
	準住居地域	33	6.7%
	近隣商業地域	33	6.7%
	商業地域	28	5.7%
	準工業地域	16	3.2%
	工業地域	18	3.6%
		400	ha
		61	ha
		34	ha



図：法規制現況図（都市計画）





【資料：小林市都市計画基礎調査】

図：法適用状況図

(2) 土地利用現況

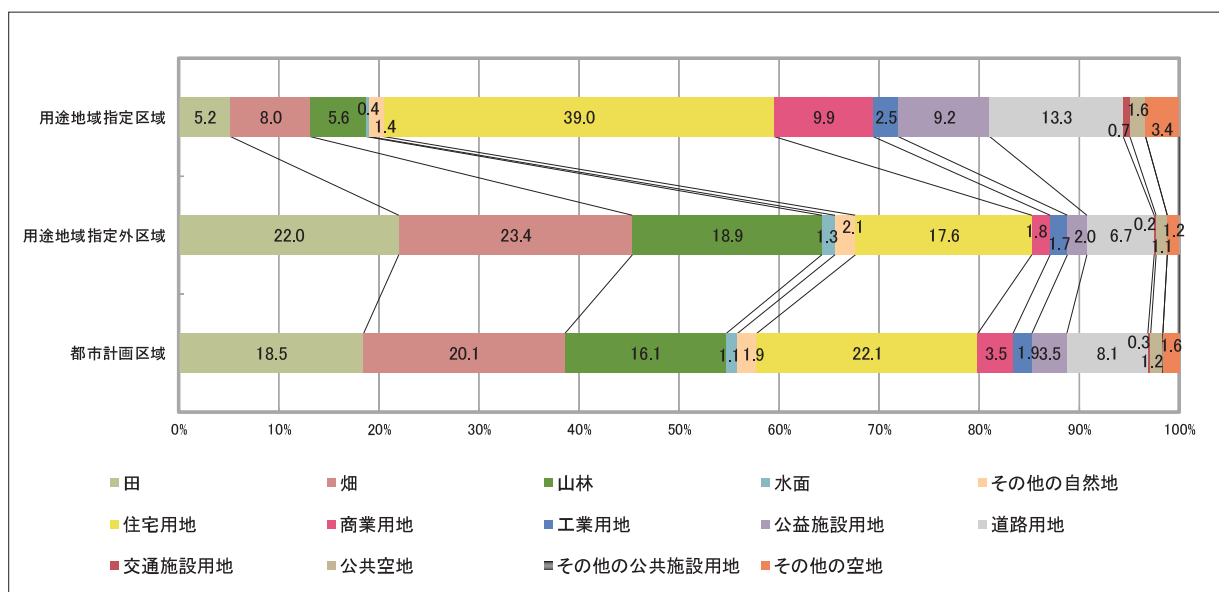
用途地域内の土地利用は、自然的土地利用が 20.5%、都市的土地利用が 79.5%となっています。一方、用途地域指定外の土地利用は、自然的土地利用が 67.7%、都市的土地利用が 32.3%となっています。

表: 土地利用別面積

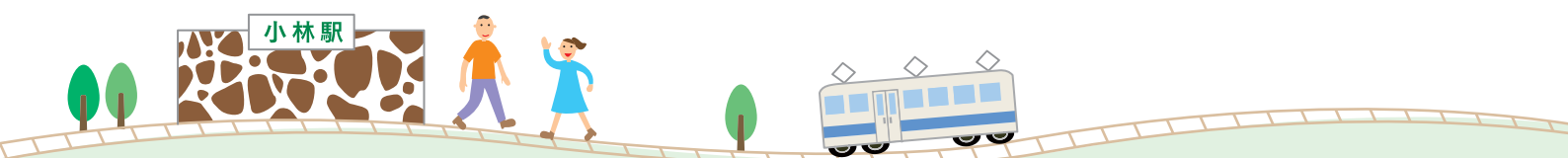
(単位: ha,%)

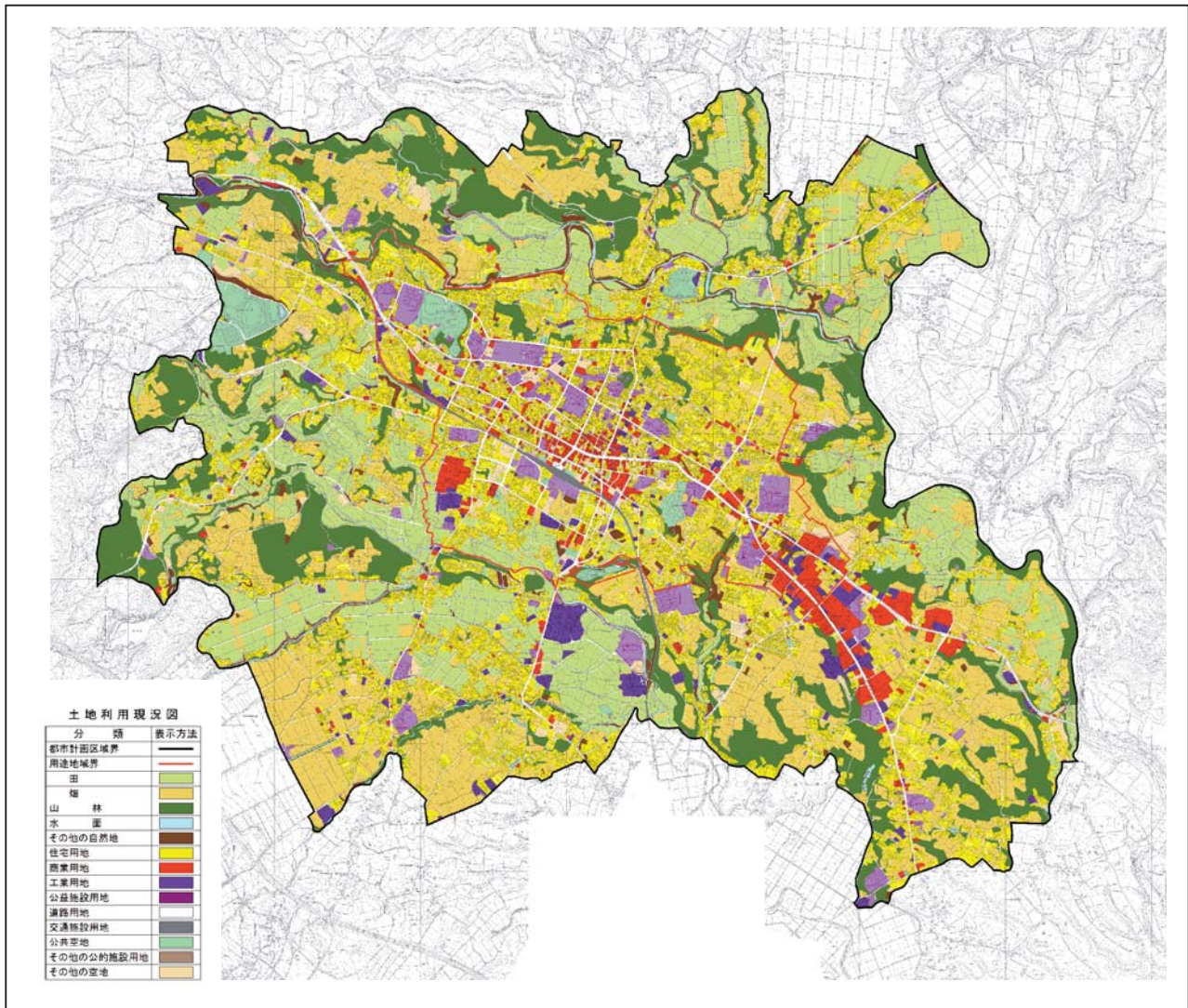
土地利用区分		都市計画区域						
		用途地域指定区域		用途地域指定外区域		合計		
		面積	比率	面積	比率	面積	比率	
自然的 土地 利用	農地	田	25.6 ha	5.2 %	410.3 ha	22.0 %	435.9 ha	18.5 %
		畑	39.4 ha	8.0 %	435.7 ha	23.4 %	475.1 ha	20.1 %
			65.0 ha	13.1 %	846.0 ha	45.4 %	911.0 ha	38.6 %
	山林	27.8 ha	5.6 %	353.0 ha	18.9 %	380.8 ha	16.1 %	
	水面	1.6 ha	0.3 %	24.5 ha	1.3 %	26.1 ha	1.1 %	
	その他の自然地	7.1 ha	1.4 %	38.4 ha	2.1 %	45.5 ha	1.9 %	
	小計	101.5 ha	20.5 %	1,261.9 ha	67.7 %	1,363.4 ha	57.8 %	
都市的 土地 利用	宅地	住宅用地	193.2 ha	39.0 %	328.4 ha	17.6 %	521.6 ha	22.1 %
		商業用地	48.9 ha	9.9 %	34.3 ha	1.8 %	83.2 ha	3.5 %
		工業用地	12.4 ha	2.5 %	32.1 ha	1.7 %	44.5 ha	1.9 %
			254.5 ha	51.4 %	394.8 ha	21.2 %	649.3 ha	27.5 %
	公益施設用地	45.3 ha	9.2 %	36.7 ha	2.0 %	82.0 ha	3.5 %	
	道路用地	65.9 ha	13.3 %	125.2 ha	6.7 %	191.1 ha	8.1 %	
	交通施設用地	3.4 ha	0.7 %	3.3 ha	0.2 %	6.7 ha	0.3 %	
	公共空地	7.7 ha	1.6 %	21.0 ha	1.1 %	28.7 ha	1.2 %	
	その他の公共施設用地	0 ha	0.0 %	0 ha	0.0 %	0 ha	0.0 %	
	その他の空地	16.7 ha	3.4 %	22.1 ha	1.2 %	38.8 ha	1.6 %	
	小計	393.5 ha	79.5 %	603.2 ha	32.3 %	996.7 ha	42.2 %	
合 計		495 ha	100.0 %	1,865 ha	100.0 %	2,360 ha	100.0 %	

【資料：小林市都市計画基礎調査】



図：土地利用別面積の比率





図：土地利用現況図

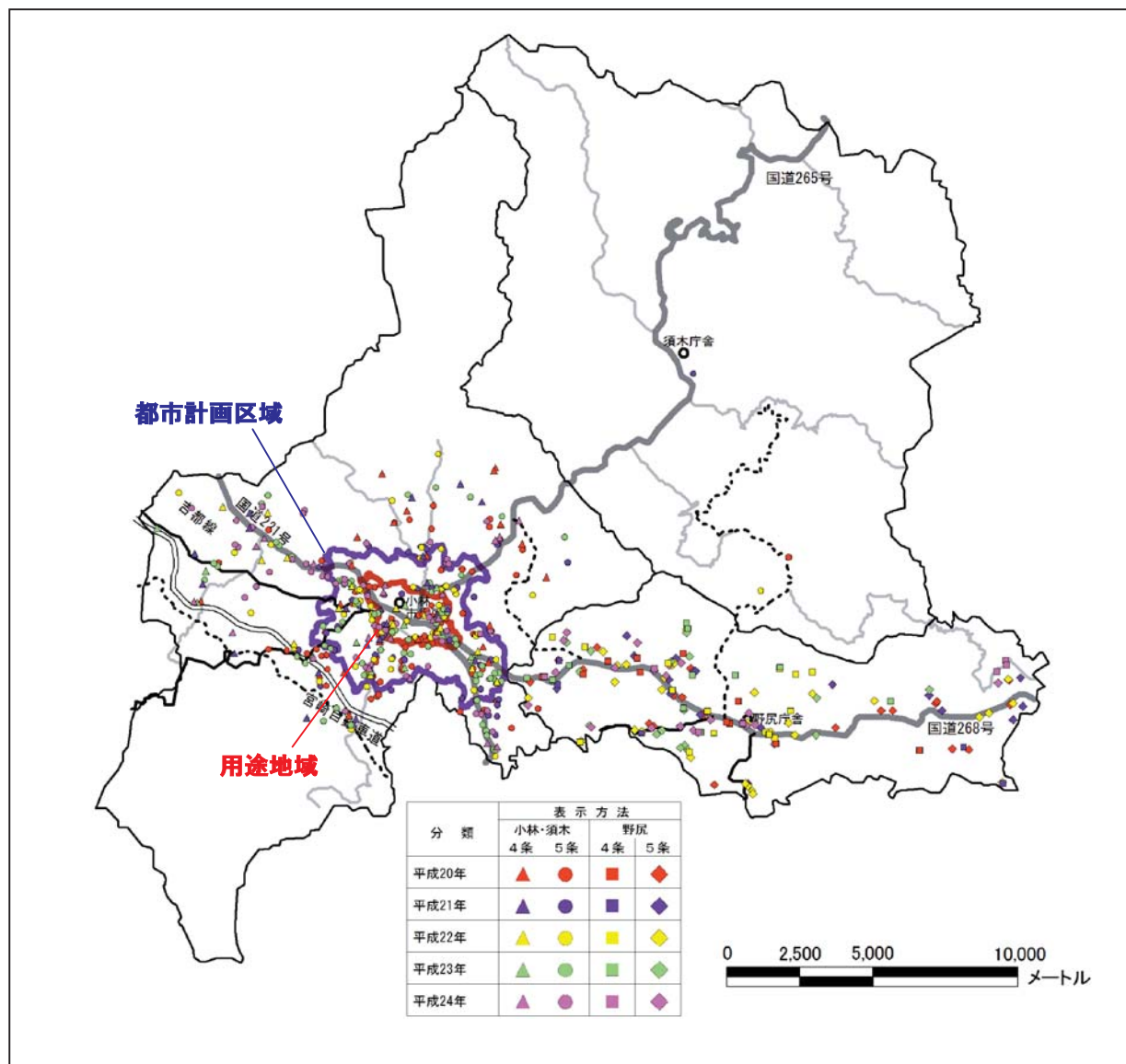
【資料：小林市都市計画基礎調査】



(3) 土地利用動向

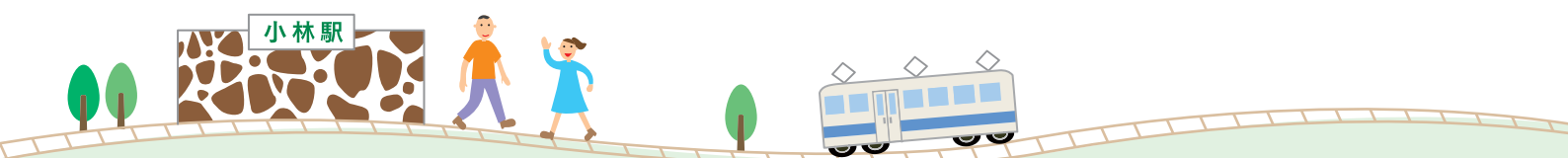
① 農地転用

農地転用状況は、用途地域内北東部で転用状況が最も活発になっています。但し、用途地域外においても国道沿いを中心に農地転用がみられ、特に国道 221 号と国道 268 号に挟まれた堤地区での農地転用が活発です。



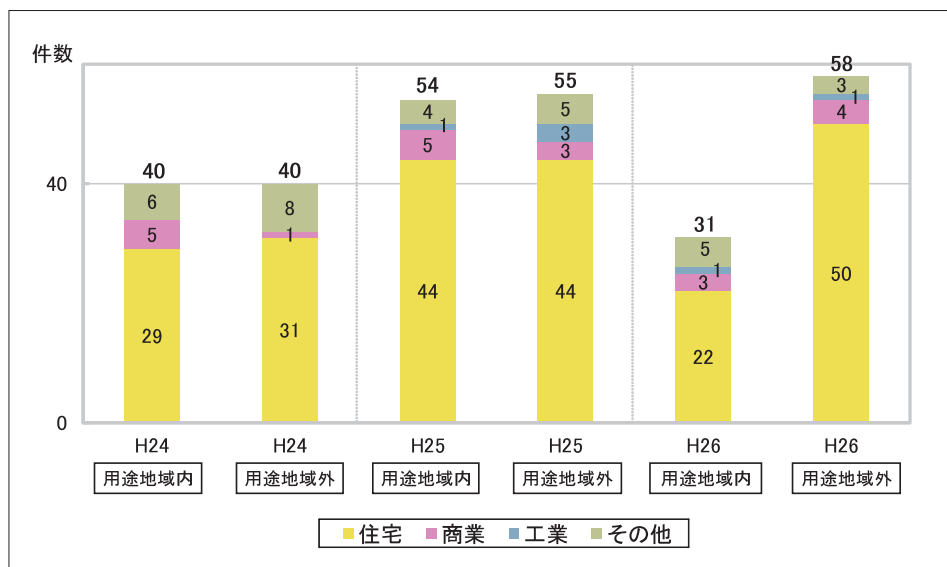
図：農地転用状況図

【資料：小林市庁内資料】

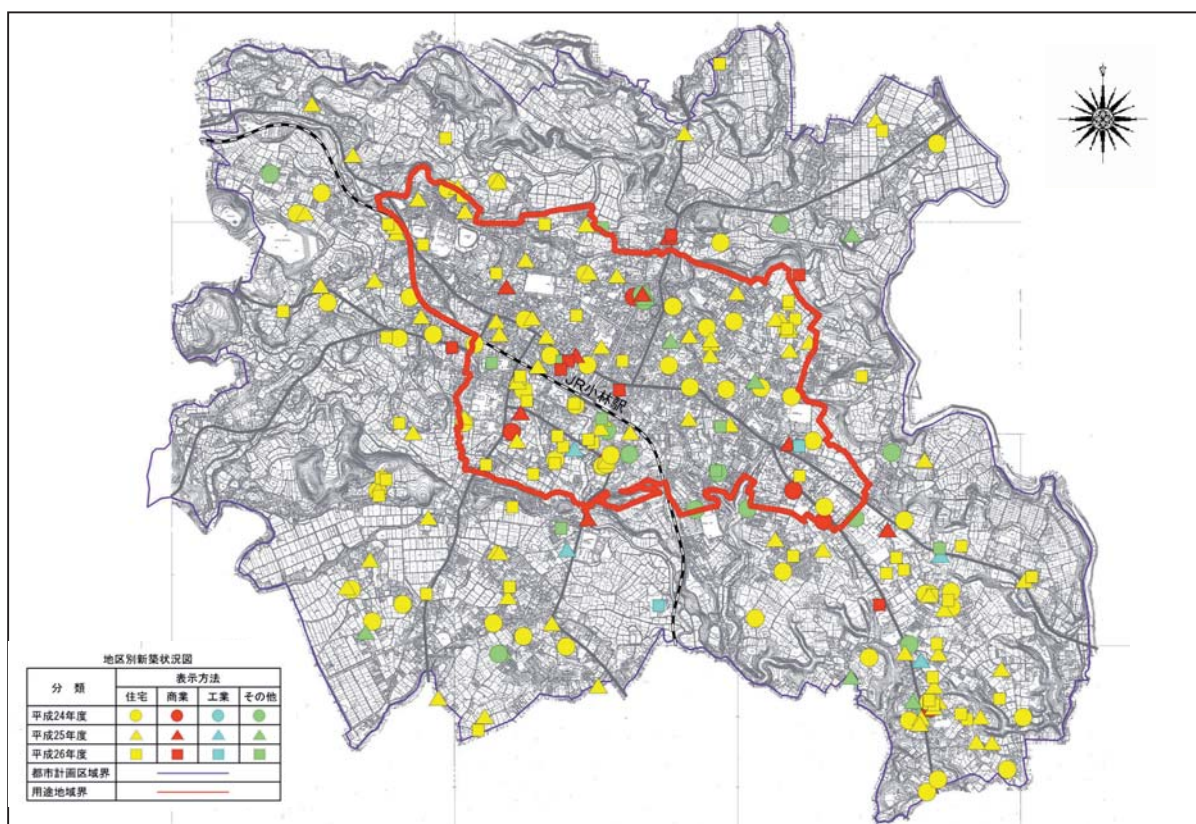


② 新築動向

新築着工状況は、用途地域内よりも用途地域外で多い傾向にあります。用途地域外では、特に国道 221 号と国道 268 号に挟まれた堤地区の動向が活発です。用途は住宅がほとんどを占めますが、商業施設もみられる状況です。



図：新築着工状況の推移 【資料：小林市都市計画基礎調査】



図：新築着工の位置図 【資料：小林市都市計画基礎調査】

（４）市街地の面的整備状況

本市では小林駅の南側約 20.7ha を対象として、小林駅前土地区画整理事業を施行しています（施行期間：昭和 46 年度～平成 24 年度）。本事業により、市の中心部において、良好な住宅および交流基盤が創出されています。

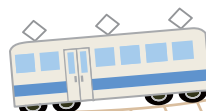
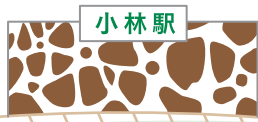


図：小林駅前土地区画整理事業 設計図

○現地写真

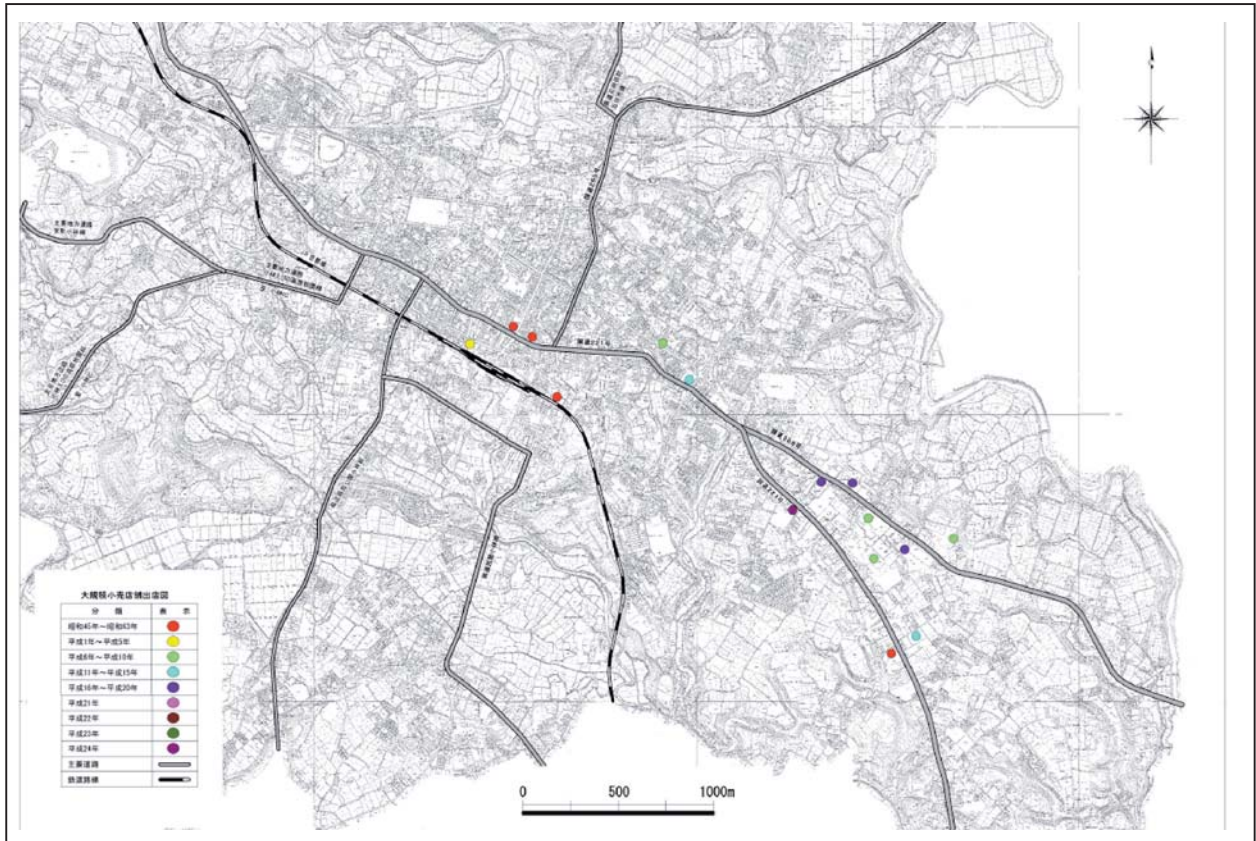


小林駅



(5) 大規模小売店舗の立地状況

本市の大規模小売店舗（1,000㎡以上）は、国道沿いを中心に立地している状況です。特に、国道221号と国道268号に挟まれた堤地区での立地が活発な状況です。



図：大規模小売店舗の立地状況

【資料：小林市庁内資料】

